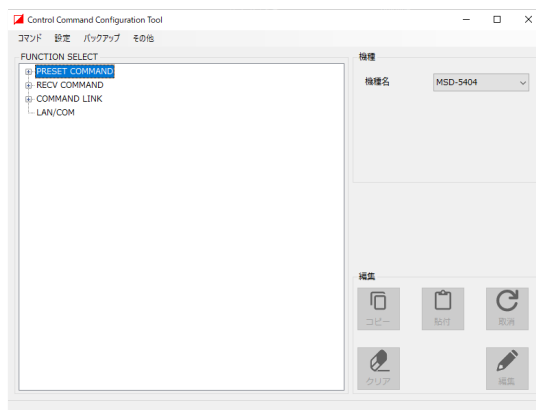


制御コマンド設定ツール

Control Command Configuration Tool

MSD-5401 / MSD-5402 / MSD-5403 / MSD-5404
MSD-5401SL / MSD-5402SL
ICP-9401
MSD-804FD
MSD-501 / MSD-502 / MSD-701 / MSD-702
SWC-2000
MSD-EX32
MSD-7201UHD / MSD-7202UHD / MSD-7203UHD / MSD-7204UHD
MSD-7201UHDTB / MSD-7202UHDTB / MSD-7203UHDTB / MSD-7204UHDTB
MSD-701UHD / MSD-702UHD / MSD-801UHD / MSD-802UHD
MSD-6203 / MSD-6204 / MSD-6206 / MSD-6208
MSD-701AMP
MSD-S51 / MSD-S52 / MSD-S71 / MSD-S72
MSD-V41U / MSD-V42U
MSD-V41UC / MSD-V42UC
MSD-V41UT / MSD-V42UT
MSD-V61U / MSD-V62U
ICP-V41U

取扱説明書 Ver.7.0.0



商標について

- HDMI、High-Definition Multimedia Interface、および HDMI ロゴ は、米国およびその他の国における HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または、登録商標です。
 - Microsoft, Windows 10, および Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - Microsoft® .NET は、お客様、情報、システムおよびデバイスを繋ぐソフトウェアです。
 - 本書中の弊社で提供するソフトウェアは、Microsoft .NET Framework に基づくアプリケーションです。
 - PJLink 商標は、日本、米国その他の国や地域における登録又は出願商標です。
 - その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。
- なお、本文中において、®マークや™マークを省略している場合があります。

この取扱説明書をお読みいただく前に

- この取扱説明書の無断転載を禁じます。
- お客様がお持ちの製品のバージョンによっては、この取扱説明書に記載される画面構成、メニューおよび画面表示などが一部異なる場合がありますのでご了承ください。
- 取扱説明書は改善のため、事前の予告なく変更することがあります。

著作権について

本ソフトウェアの著作権は、株式会社アイ・ディ・ケイが保有します。お客様は、いかなる理由においても本ソフトウェアの改造や譲渡、販売および再配布はできません。

保証の範囲について

弊社から提供する設定ソフトウェアは、無償でご利用いただけます。ただし、これらの設定ソフトウェアには製品保証が付帯しません。また、設定ソフトウェアの更新・問い合わせの対応をしておらず、弊社都合により提供を停止することがあります。万一、問題が起きても弊社では一切の責任を負いかねます。

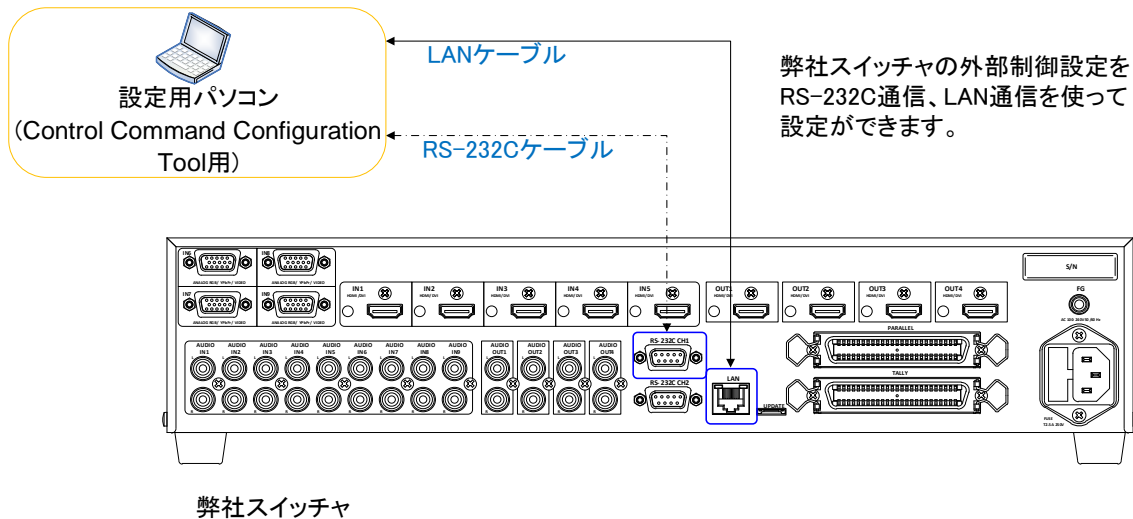
目次

1	Control Command Configuration Tool とは	5
1.1	特長	5
1.2	動作環境	6
2	はじめに	7
2.1	準備するもの	7
2.2	環境設定	7
2.2.1	インストール方法	7
2.2.2	アンインストール方法	10
3	Control Command Configuration Tool の画面構成	11
3.1	起動方法	11
3.2	画面構成	11
4	基本操作	13
4.1	本ソフトウェアの接続設定を行う	14
4.2	通信設定と制御コマンド送信機能の編集	15
4.2.1	機種選択	15
4.2.2	制御コマンドの編集	16
4.2.3	返信コマンドの編集	25
4.2.4	コマンド関連付けの編集	29
4.2.5	IDK 製品の通信設定を行う	31
4.2.6	通信設定の一部を Web アプリケーション用に設定する	34
4.2.7	コピー / 貼付 / 取消 / クリア / 編集	36
4.3	コマンドを機器本体から読み込む / 機器本体に書き込む	39
4.3.1	コマンドを機器本体から読み込む	39
4.3.2	コマンドを機器本体に書き込む	40
4.4	コマンドをファイルから読み込む / ファイルに書き込む	41
4.4.1	コマンドをファイルから読み込む	41
4.4.2	コマンドをファイルに書き込む	41
4.5	設定内容の一覧をテキスト出力する	42
4.6	機器本体の全設定内容をバックアップ / リストアする	43
4.6.1	機器本体の全設定内容をバックアップする	43
4.6.2	パソコンに保存したバックアップデータを機器本体にリストアする	45
4.7	Control Command Configuration Tool の終了	46
4.8	Control Command Configuration Tool のバージョン情報表示	46
4.9	Readme の表示	46

1 Control Command Configuration Tool とは

Control Command Configuration Tool とは、IDK 製品の通信設定 (RS-232C 通信設定、LAN 通信設定) と制御コマンド送信機能 (制御コマンド、返信コマンド、コマンド関連付け) を、IDK 製品との接続を行わず事前にパソコン上で編集することができるソフトウェアです。

編集した通信設定と制御コマンド送信機能の設定値を機器に反映する際には、LAN または RS-232C で IDK 製品と接続してください。



[図 1.1] Control Command Configuration Tool からの設定

1.1 特長

Control Command Configuration Tool の特長は次のとおりです。

- ・ IDK 製品との接続前に通信設定と制御コマンド送信機能の編集が可能
- ・ IDK 製品と接続することで事前に編集した通信設定と制御コマンド送信機能の設定値の書き込みが可能
- ・ 編集した通信設定と制御コマンド送信機能の設定値をファイルに保存することが可能
- ・ 機器本体の設定をパソコンへバックアップが可能
- ・ 1 台の弊社スイッチャに設定した内容を、他の同一機種にコピーが可能

1.2 動作環境

Control Command Configuration Tool を操作するためのパソコンの動作環境は次のとおりです。

[表 1.1] パソコンの動作環境

項目	内容
OS	Windows 10 (32 ビット版 / 64 ビット版)
CPU	1 GHz 以上
ハードディスク	500 MB 以上
メモリ	500 MB 以上
ディスプレイ解像度	XGA (1024x768) 以上
Microsoft .NET Framework	4.6.2 以上

【参考】 Microsoft .NET Framework については、日本マイクロソフト株式会社のサポートページをご覧ください。

2 はじめに

2.1 準備するもの

次のものを準備してください。

- ・ソフトウェア
- ・パソコン
- ・IDK 製品
- ・LAN ケーブルまたは RS-232C ケーブル (クロスケーブル)

【参考】ソフトウェアは、弊社ホームページよりダウンロードができます。

対象製品の詳細ページをご覧ください。

www.idk.co.jp/products

2.2 環境設定

本章では、Control Command Configuration Tool のインストールとアンインストールの方法について説明します。

【注意】Control Command Configuration Tool をインストールまたはアンインストールするときは、パソコンから管理者権限のあるアカウントで実行してください。

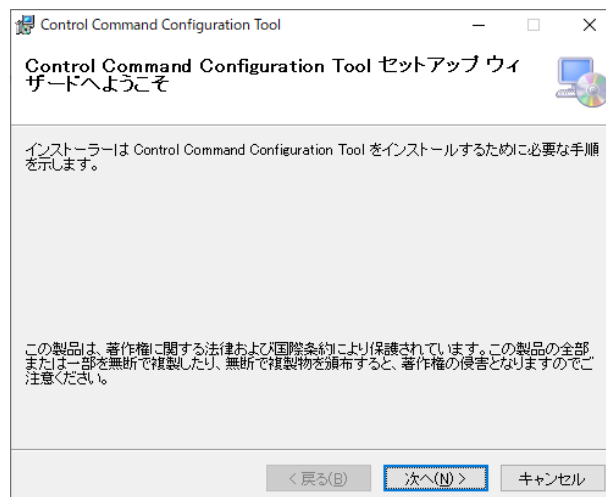
2.2.1 インストール方法

Control Command Configuration Tool のインストール方法について説明します。

次の手順に従い、パソコンに Control Command Configuration Tool をインストールしてください。

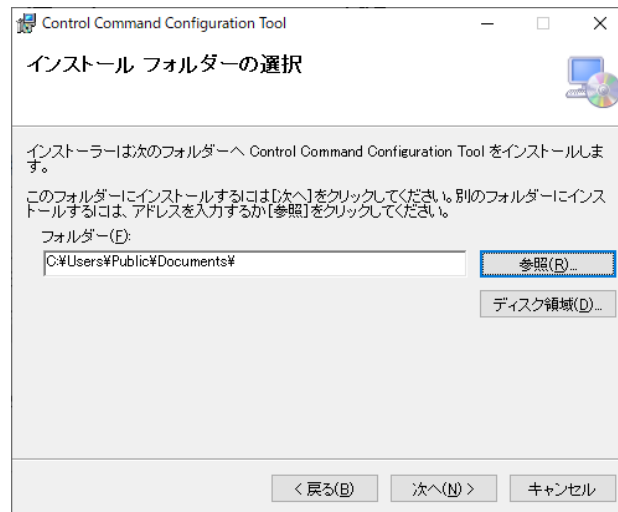
手順 1: “ControlCommandConfigurationTool_vxxx*Jp.msi” を実行します。(xxx*= 数値 3 桁で表されるソフトウェアバージョン)

次の画面が表示されたら、[次へ] ボタンをクリックしてください。

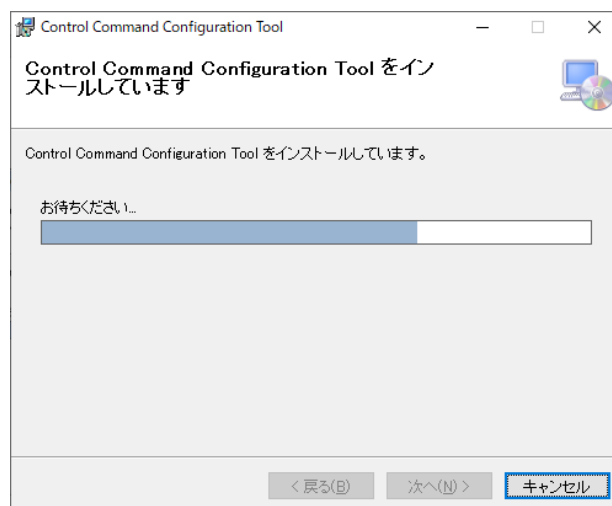


[図 2.1] セットアップウィザードの開始

次の画面が表示されたら、任意のインストールフォルダを選択して、[次へ] ボタンをクリックしてください。

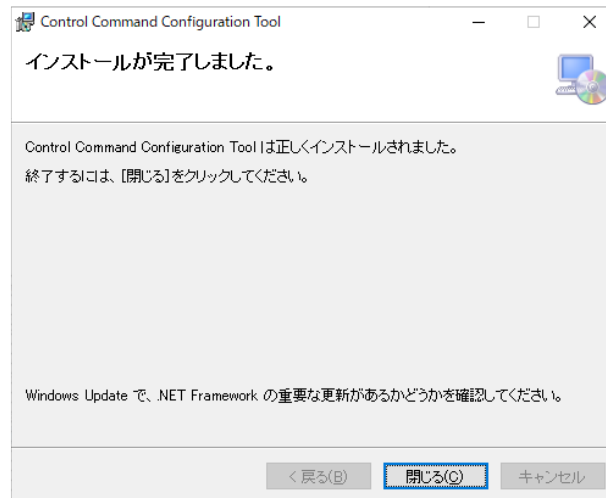


[図 2.2] インストールフォルダの選択



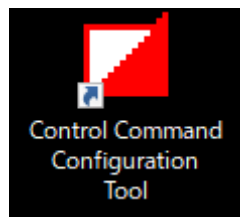
[図 2.3] インストールの開始

次の画面が表示されたら、[閉じる] ボタンをクリックしてください。



[図 2.4] インストールの完了

手順 2 : パソコンに Control Command Configuration Tool が正常にインストールされると、デスクトップ画面上に [Control Command Configuration Tool] アイコンが表示されます。



[図 2.5] [Control Command Configuration Tool] アイコン

2.2.2 アンインストール方法

Control Command Configuration Tool をアンインストールするときは、パソコンの [コントロールパネル] – [プログラムと機能] から “Control Command Configuration Tool” を選択し、[アンインストール] ボタンをクリックしてください。



【図 2.6】 Control Command Configuration Tool のアンインストール

3 Control Command Configuration Tool の画面構成

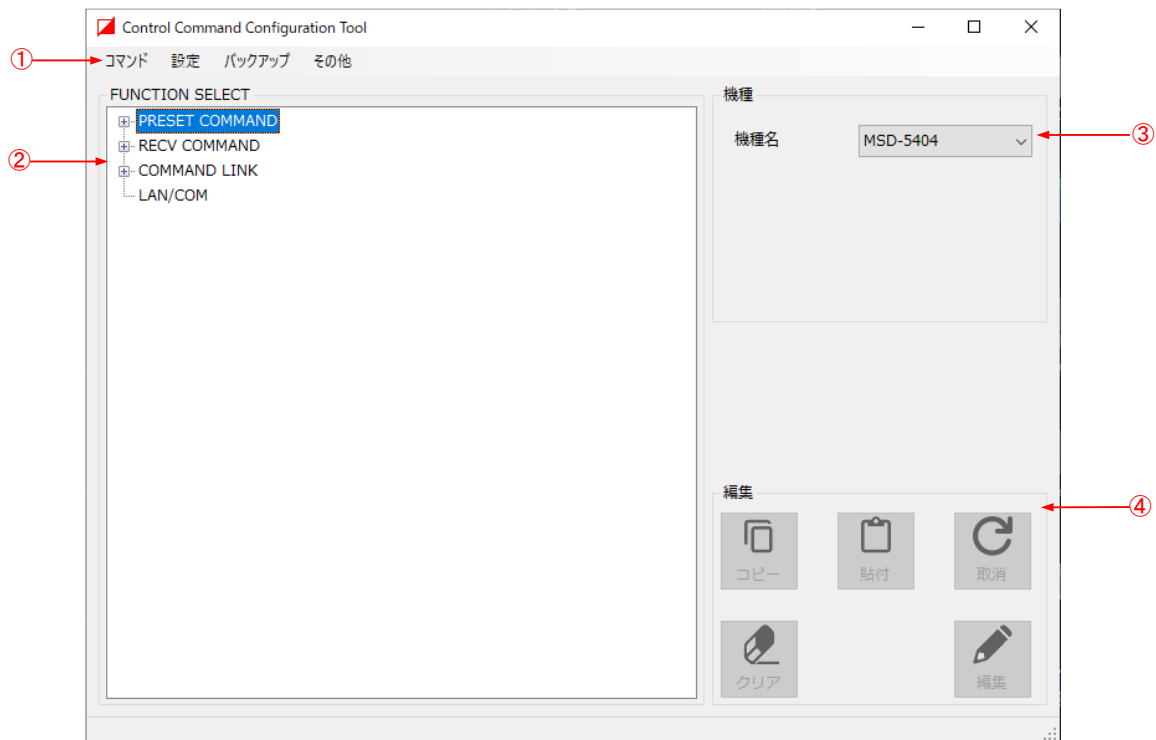
本章では、Control Command Configuration Tool の起動方法と画面構成について説明します。

3.1 起動方法

デスクトップ画面上の [Control Command Configuration Tool] アイコンをダブルクリックし、Control Command Configuration Tool を起動してください。
なお、Control Command Configuration Tool はスタートメニューからも起動することができます。

3.2 画面構成

Control Command Configuration Tool の画面は、メニューバー、編集する機能の選択、機種選択、編集から構成されます。



[図 3.1] Control Command Configuration Tool の画面構成

[表 3.1] 画面の説明

番号	名前	説明
①	メニューバー	編集した通信設定 (RS-232C 通信設定、LAN 通信設定) と制御コマンド送信機能 (制御コマンド、返信コマンド、コマンド関連付け) の設定値の機器本体への書き込みやファイルへの書き込みなどを行うメニューです。 【参照：[表 3.2] メニューバーについて (P.12)】
②	編集する機能の選択	制御コマンド、返信コマンド、コマンド関連付け、通信設定を選択します。 【参照：4 基本操作 (P.13)】
③	機種選択	対象となる機種を選択します。 【参照：4.2.1 機種選択 (P.15)】
④	編集	選択項目に各種操作をします。 【参照：4.2.7 コピー / 貼付 / 取消 / クリア / 編集 (P.36)】

[表 3.2] メニューバーについて

メニュー			説明	参照 ページ
コマンド	新規		編集中の通信設定と制御コマンド送信機能を初期化します。	15
	読込	ファイル	パソコンに保存したファイルから、通信設定と制御コマンド送信機能の設定値を読み込みます。	41
		機器	接続した機器本体から、通信設定と制御コマンド送信機能の設定値を読み込みます。	39
	書込	ファイル	編集した通信設定と制御コマンド送信機能の設定値を、パソコン上にファイルとして保存します。	41
		機器	編集した通信設定と制御コマンド送信機能の設定値を、接続した機器本体へ反映します。	40
	設定内容の一覧を出力		編集した通信設定と制御コマンド送信機能の設定値を、一覧としてテキストファイルに出力します。	42
	終了		Control Command Configuration Tool を終了します。	46
設定	接続設定		Control Command Configuration Tool と機器本体の接続設定をします。	14
バックアップ	バックアップ		各機種で設定可能な機器本体の入力情報や出力情報などの全パラメータを、パソコンにファイルとしてバックアップします。	43
	リストア		パソコンのファイルにバックアップした設定を、機器本体にリストアします。	45
その他	バージョン情報		Control Command Configuration Tool のバージョン情報を表示します。	46
	Readme の表示		Readme を表示します。	46

4 基本操作

本章では、次の基本操作方法について説明します。

- ・ オフラインでの通信設定と制御コマンド送信機能の編集
 - 制御コマンドの編集
 - 返信コマンドの編集
 - コマンド関連付けの編集
 - 通信設定の編集
- ・ 本ソフトウェアの接続設定
- ・ 編集した通信設定と制御コマンド送信機能の設定値を機器本体へ反映
- ・ 編集した通信設定と制御コマンド送信機能の設定値をファイルへ保存
- ・ 通信設定と制御コマンド送信機能の設定値を機器本体から読み込み
- ・ 保存したファイルからの通信設定と制御コマンド送信機能の設定値を読み込み
- ・ 編集した通信設定と制御コマンド送信機能の設定値をリストへ出力
- ・ 機器本体の全設定内容をバックアップ
- ・ バックアップデータを機器本体へリストア
- ・ Control Command Configuration Tool の終了
- ・ Control Command Configuration Tool のバージョン情報表示
- ・ Readme の表示

■通信設定と制御コマンド送信機能の設定値を IDK 製品に反映するまでの基本フロー

1. IDK 製品と本ソフトウェア間の通信を確立します。
機器本体のフロントパネルなどから RS-232C 通信設定、LAN 通信設定を確認して、[接続設定] より IDK 製品との通信を確立してください。
【参照：4.1 本ソフトウェアの接続設定を行う (P.14)】
2. 通信設定と制御コマンド送信機能の編集をします。
既に IDK 製品に設定された通信設定と制御コマンド送信機能に対して変更または追加を行う場合は、通信設定と制御コマンド送信機能の設定値を IDK 製品から読み込んでください。
【参照：4.2 通信設定と制御コマンド送信機能の編集 (P.15)】
【参照：4.3.1 コマンドを機器本体から読み込む (P.39)】
3. IDK 製品に本ソフトウェアで編集した通信設定と制御コマンド送信機能の設定値の書き込みを行います。
【参照：4.3.2 コマンドを機器本体に書き込む (P.40)】

4.1 本ソフトウェアの接続設定を行う

本ソフトウェアと機器本体の通信を確立するための接続設定を行います。

[設定] メニュー - [接続設定...] を選択することで、設定画面が開きます。

LAN 接続で通信を確立したい場合は [LAN] を、シリアル通信で通信を確立したい場合は [RS-232C] を選択して、設定を行ってください。

設定内容は [接続設定の保存先] テキストボックスに表示されているディレクトリに保存されます。

本ソフトウェアを起動する時の接続設定は、最後に設定した内容を引き継ぎます。



【図 4.1】 接続設定の設定画面

【注意】 接続先の設定を誤ると、機器本体との通信は行えません。

機器本体との通信時にエラーメッセージ等が表示される場合は、本設定を確認してください。

4.2 通信設定と制御コマンド送信機能の編集

通信設定 (RS-232C 通信設定、LAN 通信設定) と制御コマンド送信機能 (制御コマンド、返信コマンド、コマンド関連付け) の設定値を編集します。編集作業はオフラインで行えます。

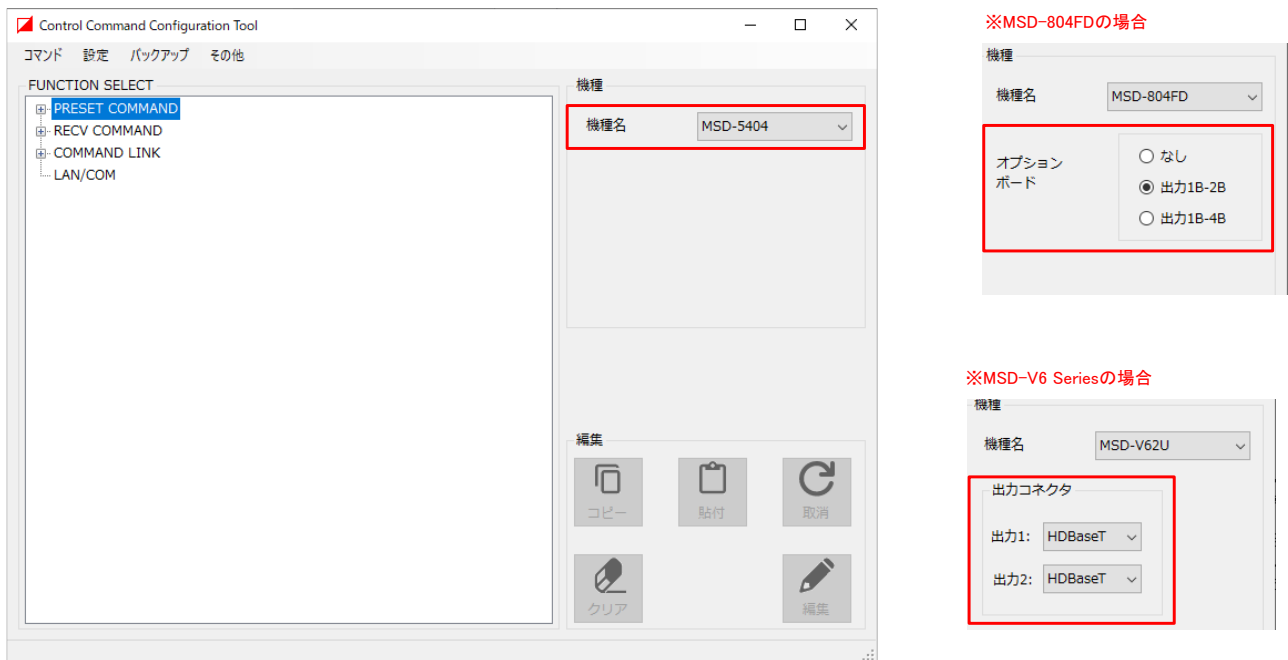
既に編集された通信設定と制御コマンド送信機能の設定値を初期化するには、[コマンド] メニュー - [新規] を選択します。

4.2.1 機種選択

通信設定と制御コマンド送信機能の設定値を編集するには、[機種名] のプルダウンリストから対象となる機種を選択します。

[機種名] が MSD-804FD の場合、さらに [オプションポート] が表示されるので、HDBaseT 出力オプションの搭載数を選択する必要があります。

MSD-V6 Series の場合、[出力コネクタ] が表示されるので、出力の種類を選択する必要があります。



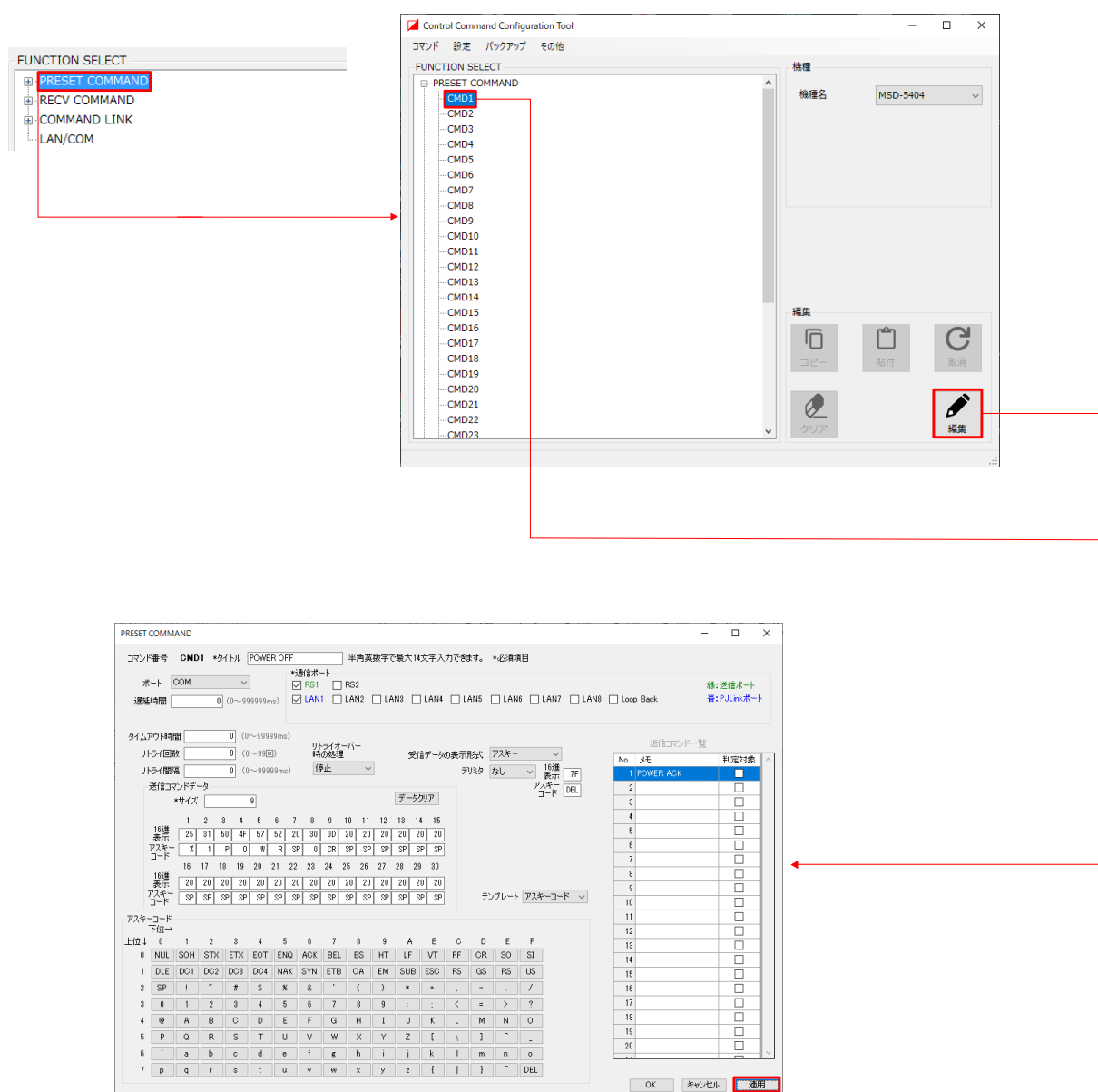
[図 4.2] Control Command Configuration Tool の画面構成

4.2.2 制御コマンドの編集

制御コマンドの編集をします。

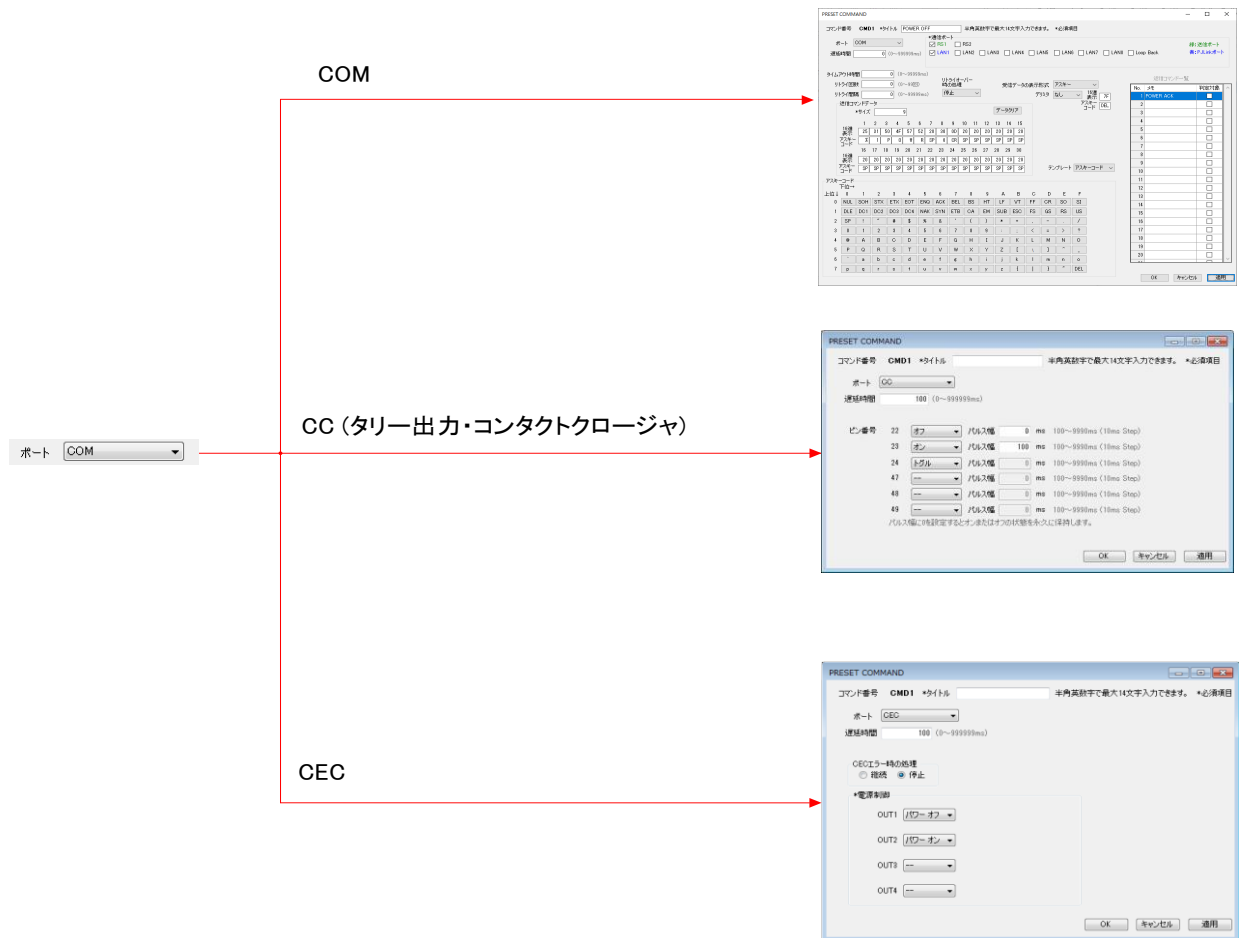
編集画面を呼び出すには [FUNCTION SELECT] のツリー表示から [PRESET COMMAND] を選択して、ダブルクリックでツリーを開きます。表示された制御コマンド一覧から、編集する制御コマンドを選択してください。ダブルクリックまたは [編集] ボタンを押すことで、編集画面が開きます。

制御コマンドでは、COM (機器本体の RS-232C コネクタ、LAN コネクタから、登録した文字列を外部機器に送信したい場合に使用します)、CC (機器本体のタリー出力・コンタクトクロージャによって外部機器に接点制御を行いたい場合に使用します。どちらを搭載しているかは機種によって異なります)、CEC (機器本体の出力チャンネルから CEC 対応のシンク機器の電源 ON/OFF を行いたい場合に使用します) から目的の制御方法を選択して、設定を行います。



[図 4.3] 制御コマンドの編集

制御コマンドの制御方法を決定する場合は、[ポート] コンボボックスから、それぞれ選択します。
制御方法を切り換えると、画面構成がそれぞれ切り換ります。



[図 4.4] 制御コマンドの編集

■制御コマンド共通の設定項目

すべての [ポート] に共通の設定項目です。

[表 4.1] 制御コマンドの設定項目 (共通)

項目	内容	設定範囲
ポート※	COM (制御コマンドを送信する)、 CC (タリー出力・コンタクトクロージャを制御する)、CEC (HDMI CEC を制御する) のいずれかの制御方法を選択します。	COM : 制御コマンド ※初期値 CC : タリー出力・ コンタクトクロージャ CEC : HDMI CEC 制御
タイトル	最大 14 文字のタイトルを登録します。 この設定項目は必ず入力してください。	半角英数字と記号 (アスキーコードの “20” ~ “7D” で “2C” (カンマ) 以外)
遅延時間	制御コマンドを実行するまでの時間を設定します。 電源 OFF 時にクーリング時間が必要なプロジェクターなどを制御する場合、制御コマンドの実行を遅らせ、時間調整することが可能です。	0 ms ~ 999999 ms ※初期値 0 ms

※ 選択可能なポートは、機種によって異なります。

■COM (制御コマンドを送信する) を選択した場合の設定項目

PRESET COMMAND

コマンド番号 **CMD1** *タイトル **POWER OFF** 半角英数字で最大14文字入力できます。 *必須項目

ポート **COM** ▼

遅延時間 **0** (0~999999ms)

*通信ポート
☒ RS1 ☐ RS2
☒ LAN1 ☐ LAN2 ☐ LAN3 ☐ LAN4 ☐ LAN5 ☐ LAN6 ☐ LAN7 ☐ LAN8 ☐ Loop Back
 緑:送信ポート
 青:PJLinkポート

タイムアウト時間 **0** (0~999999ms)
 リトライ回数 **0** (0~99回)
 リトライ間隔 **0** (0~999999ms)

リトライオーバー時の処理 **停止** ▼

受信データの表示形式 **アスキー** ▼
 デリミタ **なし** ▼ 16進表示 **7F**
 アスキーコード **DEL**

送信コマンドデータ
 *サイズ **9** データクリア

16進表示	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
アスキーコード	25	31	50	4F	57	52	20	30	0D	20	20	20	20	20	20
	%	1	P	0	W	R	SP	0	CR	SP	SP	SP	SP	SP	SP
16進表示	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
アスキーコード	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP

テンプレート **アスキーコード** ▼

アスキーコード
 下位→
 上位↓

0	NUL	SOH	STX	ETX	EOT	ENQ	ACK	BEL	BS	HT	LF	VT	FF	CR	SO	SI
1	DLE	DC1	DC2	DC3	DC4	NAK	SYN	ETB	CA	EM	SUB	ESC	FS	GS	RS	US
2	SP	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/
3	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	:	<	=	>	?
4	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
5	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_
6	`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
7	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	DEL

返信コマンド一覧

No.	メモ	判定対象
1	POWER ACK	<input checked="" type="checkbox"/>
2		<input type="checkbox"/>
3		<input type="checkbox"/>
4		<input type="checkbox"/>
5		<input type="checkbox"/>
6		<input type="checkbox"/>
7		<input type="checkbox"/>
8		<input type="checkbox"/>
9		<input type="checkbox"/>
10		<input type="checkbox"/>
11		<input type="checkbox"/>
12		<input type="checkbox"/>
13		<input type="checkbox"/>
14		<input type="checkbox"/>
15		<input type="checkbox"/>
16		<input type="checkbox"/>
17		<input type="checkbox"/>
18		<input type="checkbox"/>
19		<input type="checkbox"/>
20		<input type="checkbox"/>

OK キャンセル 適用

[図 4.5] 制御コマンドの編集画面 (COM)

[ポート] で“COM”を選択した場合は、[表 4.2] を設定してください。
 “CC”、“CEC”を選択した場合は不要です。

[表 4.2] 制御コマンドの設定項目 (COM)

項目	内容	設定範囲
通信ポート※ ¹	機器本体から外部機器に制御コマンドを送信する通信ポートを選択します。 それぞれ個別に設定することができ、複数の通信ポートから同時に制御コマンドを送信することが可能です。	<input type="checkbox"/> RS1 送信しない ※初期値 <input checked="" type="checkbox"/> RS1 送信する
タイムアウト時間※ ² ※ ³	返信コマンドを待ち受ける際のタイムアウト時間を設定します。 タイムアウト時間内に有効な返信コマンドが返ってこなかった場合に、リトライを実行します。 タイムアウトを使用しない場合は、“0”を設定します。	0 ms ~ 99999 ms ※初期値 “0” ms
リトライ間隔※ ² ※ ³	リトライを実行するときに、再度制御コマンドを送信するまでの間隔を指定します。	0 ms ~ 99999 ms ※初期値 “0” ms
リトライ回数※ ² ※ ³	送信した制御コマンドに対する有効な返信コマンドが返ってこなかった場合に、再度同じ制御コマンドを送信する回数を設定します。	0 回 ~ 99 回 ※初期値 “0” 回
リトライオーバー時の処理※ ² ※ ³	[リトライ回数] で指定した回数分リトライしても返信コマンドが返ってこなかった場合に、次に登録されている制御コマンドを処理するかどうかを設定します。	停止：制御コマンドを送らない ※初期値 継続：制御コマンドを送る
サイズ	[送信コマンドデータ] の 1 バイト目から何バイト分のデータを送信するのかが設定します。(最大 30 バイト) この設定項目は “0” 以上を設定する必要があります。	0 ~ 30 ※初期値 “0”
送信コマンドデータ	外部機器に送信されるコマンドです。 1 バイト目から順に送信されます。 [16 進表示]、[アスキーコード] のテキストボックスは、一方に入力すると、もう一方に自動的に変換されて入力されます。 送信するバイト数は、[サイズ] で設定します。	半角英数字と記号 (アスキーコードの “0A”、“0D”、“20” ~ “7D” ※初期値 “20” (スペース))
受信データの表示形式	受信データを本体機器のディスプレイに表示する形式を設定します。 この受信データは、制御コマンドの送信先から応答値として返ってきたものです。	オフ : 表示しない ※初期値 アスキー : ASCII 文字 (テキスト) で表示する 16 進数 : 16 進数で表示する
デリミタ※ ⁴ (区切り文字)	受信データの最後に送られてくるデリミタを設定します。 デリミタまでの受信データが有効なデータになります。“なし” 設定にすると、[タイムアウト時間] で設定した時間内の全受信データが有効なデータになります。	なし : デリミタをチェックしない ※初期値 使用 : デリミタをチェックする (デリミタの設定範囲は 16 進数の “00” ~ “FF” です。)
返信コマンド一覧※ ⁵	送信したコマンドに対して、応答値として想定されるコマンドを登録します。その応答を受けた場合の挙動は返信コマンドで設定します。 【参照：4.2.3 返信コマンドの編集 (P.25)】	判定対象 <input type="checkbox"/> チェックしない ※初期値 判定対象 <input checked="" type="checkbox"/> チェックする

※1 選択可能な通信ポートは、機種によって異なります。

- ・ RS1 : RS-232C CH1^{※6}
- ・ RS2 : RS-232C CH2^{※6}
- ・ OUT1B RS～OUT4B RS : OUT1B ～ OUT4B (OUT1B ～ OUT4B の RS-232C)
- ・ LOOP BACK : 内部ループバック
- ・ LAN1 ～ LAN12 : LAN コネクション 1 ～ LAN コネクション 12^{※7}
- ・ OUT1B LAN ～ OUT4B LAN : OUT1B ～ OUT4B (OUT1B ～ OUT4B の LAN コネクション)

※2 [通信ポート] の [LOOP BACK] のみを“送信する”に設定した場合は、設定不要です。

※3 [返信コマンド一覧] をすべて“チェックしない”に設定した場合は設定不要です

※4 [受信データの表示形式] に“オフ”を選択した場合は、設定できません。

※5 [受信データの表示形式] に“アスキー”または“16進数”を選択した場合は、設定できません。

※6 [RS1]、[RS2]、[OUT1B RS] ～ [OUT4B RS] を“送信する”に設定した場合は、

4.2.5 IDK 製品の通信設定 (P.31) で“送信モード”に設定する必要があります。

※7 [LAN1] ～ [LAN12] を“送信する”に設定した場合は、**4.2.5 IDK 製品の通信設定 (P.31)** で“送信モード”に設定する必要があります。

[テンプレート] コンボボックスにより、送信コマンドデータの入力方法を切り換えることができます。

入力方法を切り換えると、画面構成がそれぞれ切り換わります。

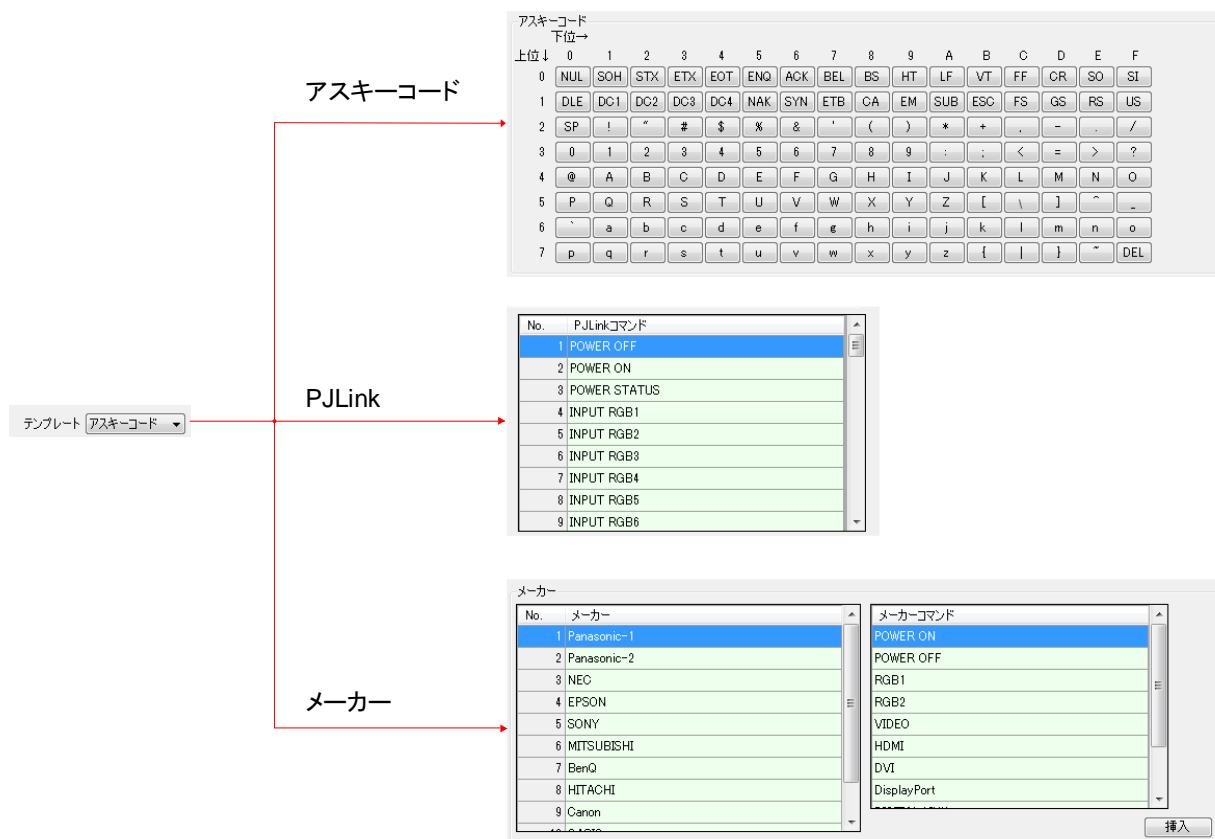
PJLink 規格のコマンドといくつかのメーカーコマンドはテンプレートとして登録しています。

テンプレートには対応するデータ配列が登録されており、これを選択することで送信コマンドデータに入力可能です。

送信コマンドデータを手動で入力する場合は [アスキーコード] を選択し、各ボタンから入力してください。

テンプレートが“PJLink”の場合は PJLink コマンドを選択して、“メーカー”の場合は、メーカーコマンドを選択して、[挿入] ボタンを押してください。既定のコマンドが送信コマンドデータに反映されます。

“アスキーコード”の場合は、[送信コマンドデータ] の各番号のテキストボックスを選択し、[アスキーコード] の [00] ～ [7F] ボタンを押すことで入力ができます。



[図 4.6] 各種テンプレート

[表 4.3] テンプレートの説明

テンプレート	内容
アスキーコード	他社製のシンク機器に使用する制御コマンドのテンプレートを表示します。
PJLink	PJLink コマンドのテンプレートを表示します。
メーカー	アスキーコードを入力するボタンを表示します。

■CC (タリー出力・コンタクトクロージャ) を選択した場合の設定項目

The screenshot shows the 'PRESET COMMAND' dialog box. At the top, there's a title bar with standard window controls. Below it, the 'コマンド番号' (Command Number) is 'CMD1', and the '*タイトル' (Title) is empty. A note says '半角英数字で最大14文字入力できます。 *必須項目' (Maximum 14 alphanumeric characters, *required). The 'ポート' (Port) is set to 'CC'. The '遅延時間' (Delay Time) is '100' ms, with a range of '(0~999999ms)'. Below this, there's a table for pin settings:

ピン番号	状態	パルス幅	単位	範囲
22	オフ	0	ms	100~9990ms (10ms Step)
23	オン	100	ms	100~9990ms (10ms Step)
24	トグル	0	ms	100~9990ms (10ms Step)
47	--	0	ms	100~9990ms (10ms Step)
48	--	0	ms	100~9990ms (10ms Step)
49	--	0	ms	100~9990ms (10ms Step)

Below the table, a note states: 'パルス幅に0を設定するとオンまたはオフの状態を永久に保持します。' (Setting pulse width to 0 keeps the state on or off permanently). At the bottom right, there are three buttons: 'OK', 'キャンセル' (Cancel), and '適用' (Apply).

[図 4.7] 制御コマンドの編集画面 (CC)

[ポート] で“CC”を選択した場合は、以下の項目を設定してください。

“COM”、“CEC”を選択した場合は不要です。

[表 4.4] 制御コマンドの設定項目 (CC)

項目	内容	設定範囲
ピン番号※	<p>●タリー出力制御の場合 タリー出力の22ピン～24ピンおよび47～49ピンの制御方法を設定します。 “トグル”を選択すると、現在の状態が接点OFFであれば接点をONにし、現在の状態が接点ONであれば接点をOFFにします。</p> <p>●コンタクトクロージャ制御の場合 9個のコンタクトクロージャの制御を設定します。“トグル”を選択すると、接点の状態を反転します。</p>	<p>-- : 制御しない ※初期値</p> <p>オフ : 接点開</p> <p>オン : 接点閉</p> <p>トグル : トグル動作</p>
パルス幅	タリー出力・コンタクトクロージャの接点を[ピン番号]で設定した内容に制御してから、制御コマンド実行前の状態に戻すまでの時間を設定します。	0 : 永久に保持 ※初期値 100ms ～ 9990ms (10ms 単位)

※「タリー出力」、「コンタクトクロージャ」のいずれを設定可能かどうかは、機種ごとに異なります。

■CEC (HDMI CEC を制御する) を選択した場合の設定項目

[図 4.8] 制御コマンドの編集画面 (CEC)

[ポート] で“CEC”を選択した場合は、以下の項目を設定してください。
“COM”、“CC”を選択した場合は不要です。

[表 4.5] 制御コマンドの設定項目 (CEC)

項目	内容	設定範囲
CEC エラー時の処理	CEC で制御するシンク機器から応答がなかった場合に、次のコマンドを送信するかどうかを設定します。	停止 : 処理を停止する ※初期値 継続 : コマンドの送信を継続する
電源制御※	出力チャンネルに接続されたシンク機器の電源 ON / OFF の制御を設定します。	-- : 制御しない ※初期値 パワーオフ : 電源 OFF パワーオン : 電源 ON

※ CEC はシンク機器の電源 ON / OFF のみ制御が可能です。

4.2.3 返信コマンドの編集

返信コマンドの編集をします。

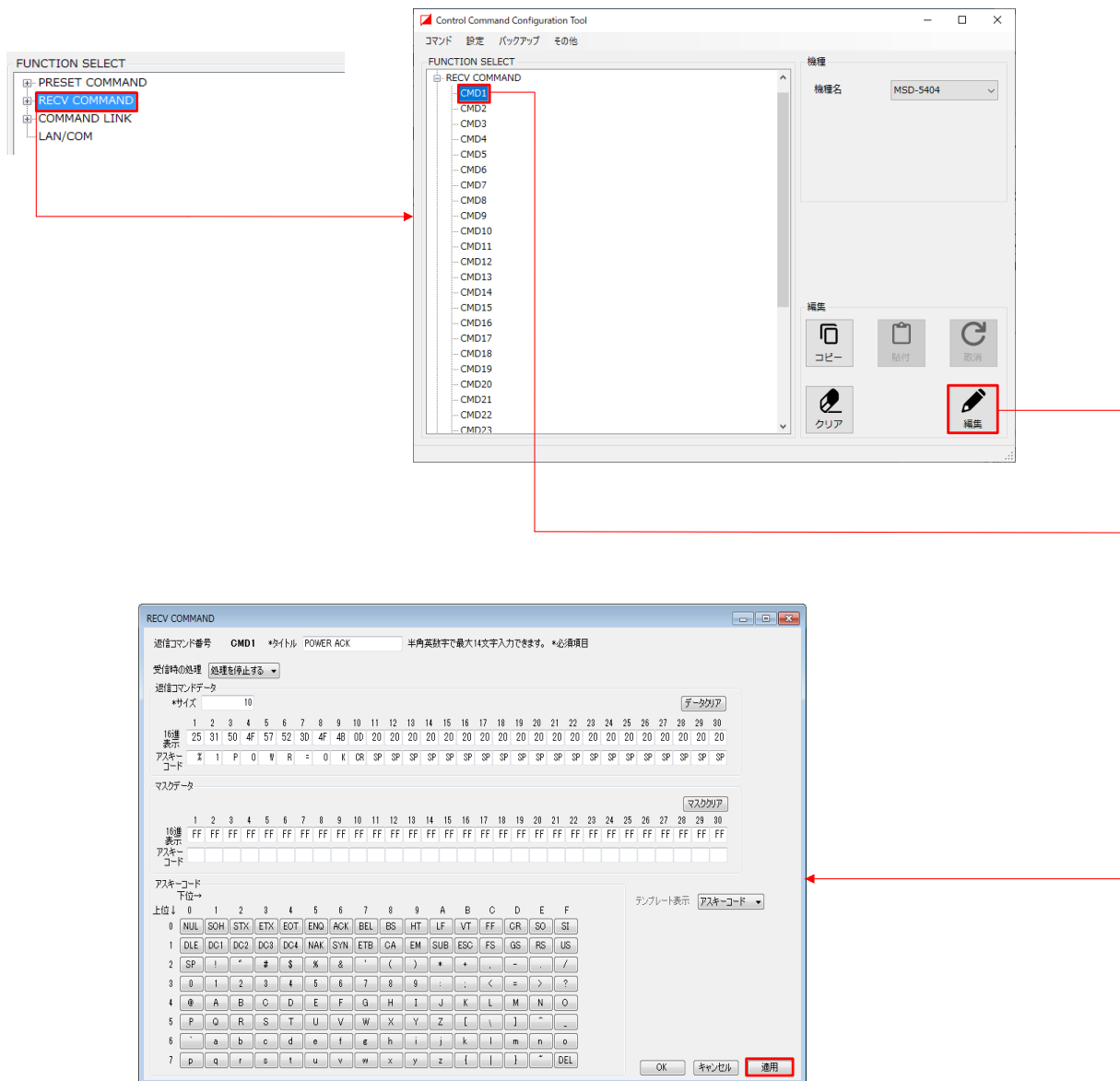
返信コマンドは制御コマンドが実行されたとき、外部機器からの応答として返信されたコマンドをチェックする機能です。ただし、制御方法を COM (機器本体の RS-232C コネクタ、LAN コネクタから、登録した文字列を外部機器に送信したい場合に使用します) にした制御コマンドの場合のみ利用可能です。

返信されたコマンドと比較するためのコマンド内容と、一致していた場合の処理は、返信コマンドの設定項目で設定します。

どの制御コマンドが実行されたときに、どのコマンド内容をチェックするかは制御コマンドの設定で選択します。

【参照：4.2.2 制御コマンドの編集 (P.16)】

編集画面を呼び出すには [FUNCTION SELECT] のツリー表示から [RECV COMMAND] を選択して、ダブルクリックでツリーを開きます。表示された返信コマンド一覧から、編集したい返信コマンドを選択して、ダブルクリックまたは [編集] ボタンを押すことで、編集画面が開きます。



【図 4.9】 返信コマンドの編集

RECV COMMAND																															
返信コマンド番号		CMD1	*タイトル	POWER ACK										半角英数字で最大14文字入力できます。 *必須項目																	
受信時の処理		処理を停止する ▼																													
返信コマンドデータ																															
		*サイズ		10										<button>データクリア</button>																	
16進表示 アスキーコード		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
		25	31	50	4F	57	52	3D	4F	4B	0D	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
		%	!	P	O	W	R	=	O	K	CR	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	SP	
マスクデータ																															
		<button>マスククリア</button>																													
16進表示 アスキーコード		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
		FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF	FF
テンプレート表示																															
アスキーコード		▼																													
上位↓		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F														
		NUL	SOH	STX	ETX	EOT	ENQ	ACK	BEL	BS	HT	LF	VT	FF	CR	SO	SI														
		DLE	DC1	DC2	DC3	DC4	NAK	SYN	ETB	CA	EM	SUB	ESC	FS	GS	RS	US														
		SP	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/														
		@	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?														
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O															
		P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_														
		`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o														
		p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	DEL														
																OK キャンセル 適用															

[図 4.10] 返信コマンドの編集画面

[表 4.6] 返信コマンドの設定項目

[1/2]

項目	内容	設定範囲
タイトル	最大 14 文字のタイトルを登録します。 この設定項目は必ず入力してください。	半角英数字と記号 (アスキーコードの“20”～“7D” で“2C”(カンマ) 以外)
受信時の処理	受信したデータと [返信コマンドデータ] が一致した場合に、以降の処理を“継続する”、“コマンドを再送信する”および“処理を停止する”から設定します。	処理を継続する ※初期値 コマンドを再送信する 処理を停止する
サイズ	[返信コマンドデータ] の 1 バイト目から何バイト分のデータを比較するのかを設定します。(最大 30 バイト) この設定項目は“0”以上を設定する必要があります。	“0”～“30” ※初期値“0”

[表 4.7] 返信コマンドの設定項目 (つづき)

[2/2]

項目	内容	設定範囲
○返信コマンドデータ		
16 進数表示、 アスキーコード	受信したデータと比較するコマンドを、1 バイト目から順に[サイズ] で設定したバイト数分設定します。 [16 進表示]、[アスキーコード] のテキストボックスは、一方に入力するともう一方に自動的に変換されて入力されます。 英文字 (“A” ~ “Z” 、 “a” ~ “z”) を指定する場合は、大文字と小文字を区別するので、間違えないように入力してください。	半角英数字と記号 (アスキーコードの “0A” 、 “0D” 、 “20” ~ “7D” ※初期値 “20” (スペース))
○マスクデータ		
16 進数表示、 アスキーコード	受信したデータのビットで状態を判定する場合に使用します。 [16 進表示]、[アスキーコード] のテキストボックスは、一方に入力するともう一方に自動的に変換されて入力されます。	“00” ~ “FF” (16 進表記) ※初期値 すべて “FF”

[テンプレート] コンボボックスにより、返信コマンドデータの入力方法を切り換えることができます。

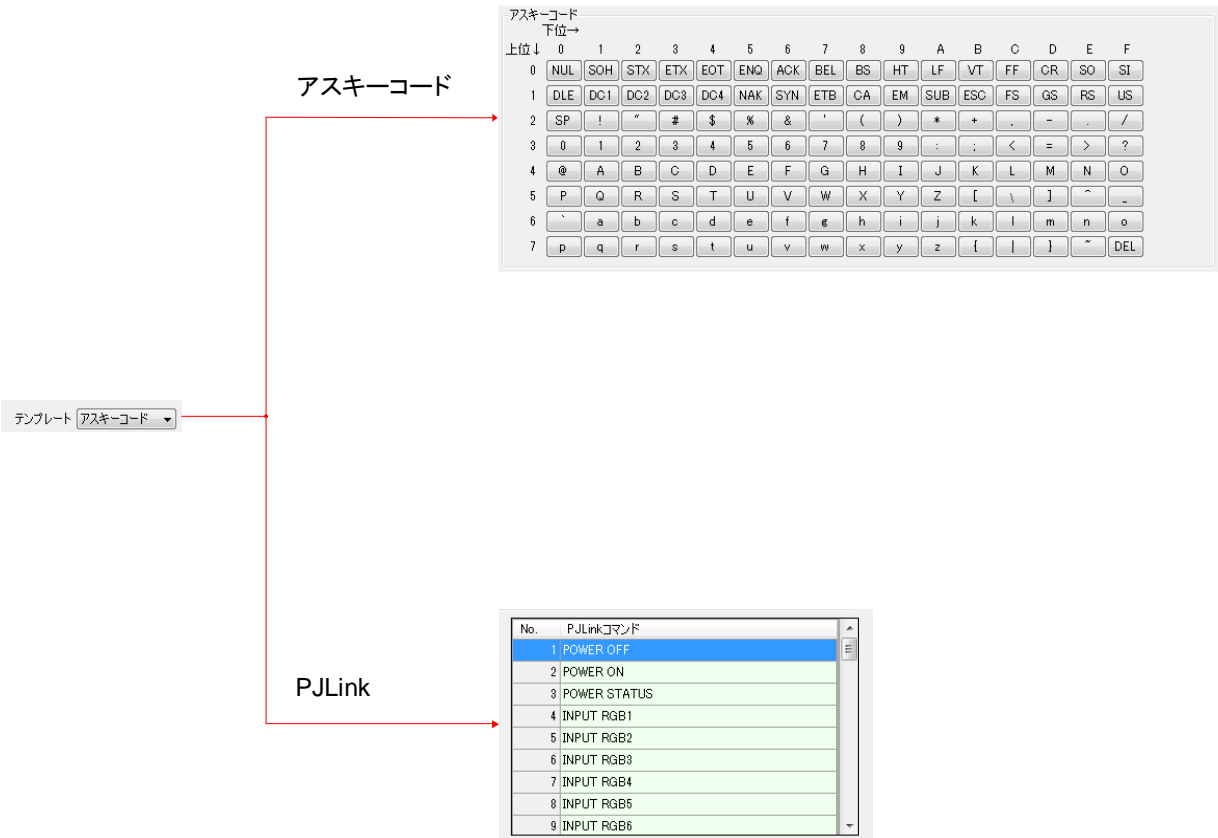
入力方法を切り換えると、画面構成がそれぞれ切り換わります。

PJLink 規格のコマンドはテンプレートとして登録しています。

テンプレートには対応するデータ配列が登録されており、これを選択することで返信コマンドデータに入力可能です。

返信コマンドデータを手動で入力する場合は [アスキーコード] を選択し、各ボタンから入力してください。テンプレートが“PJLink”の場合は PJLink コマンドを選択して、[挿入] ボタンを押してください。既定のコマンドが返信コマンドデータに入力されます。

“アスキーコード”の場合は、[返信コマンドデータ] の各番号のテキストボックスを選択し、[アスキーコード] の [00] ～ [7F] ボタンを押すことで入力が行われます。



[図 4.11] 各種テンプレート

[表 4.8] テンプレートの説明

テンプレート	内容
アスキーコード	アスキーコードを入力するボタンを表示します。
PJLink	PJLink コマンドのテンプレートを表示します。

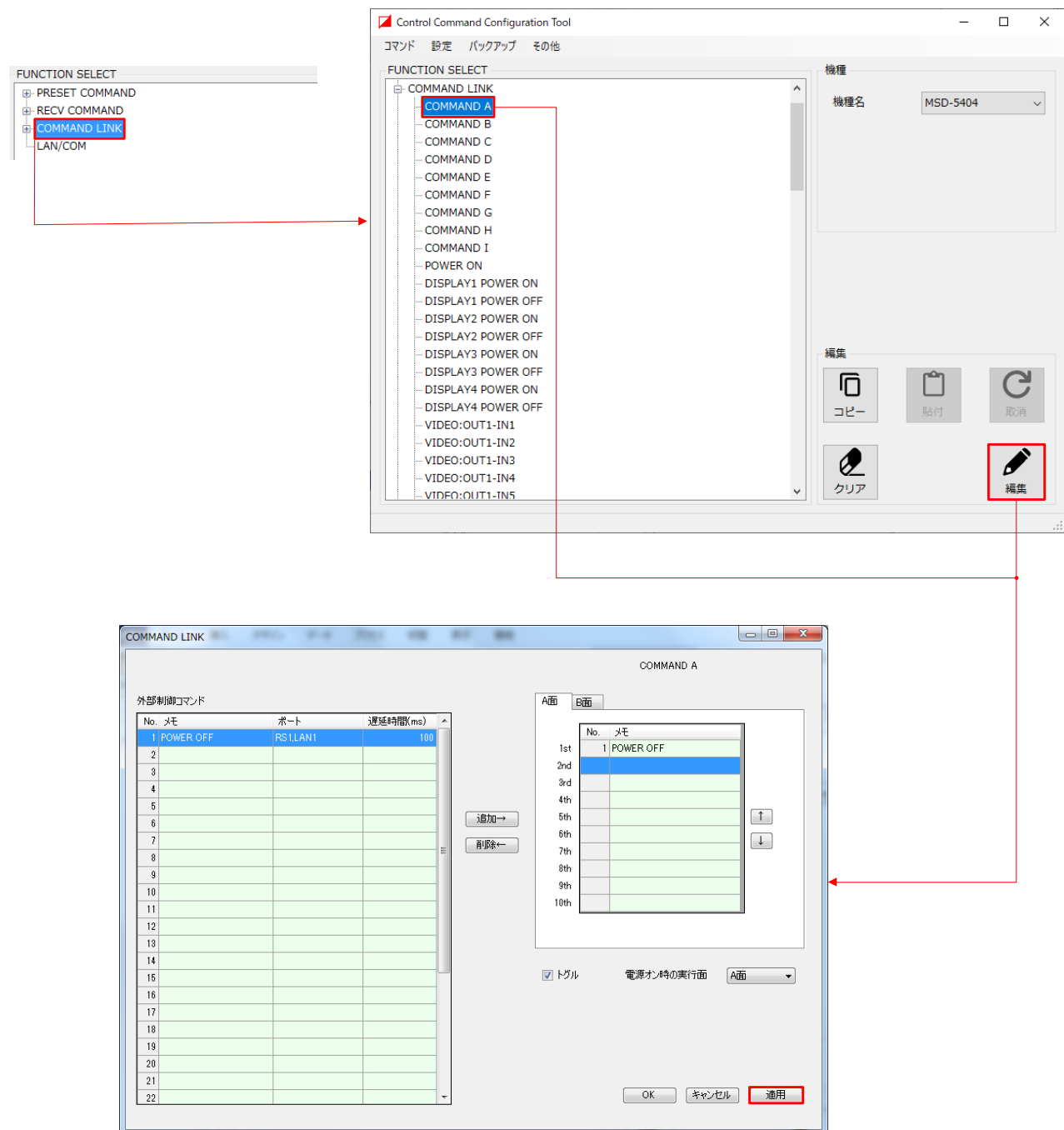
4.2.4 コマンド関連付けの編集

実行条件と制御コマンドの関連付けを行います。

制御コマンド実行時のエラーに対するリトライ・停止処理は制御コマンドの設定で行います。

【参照：4.2.2 制御コマンドの編集 (P.16)】

編集画面を呼び出すには [FUNCTION SELECT] のツリー表示から [COMMAND LINK] を選択して、ダブルクリックでツリーを開きます。表示されたコマンド関連付け一覧から、編集したい項目を選択して、ダブルクリックまたは [編集] ボタンを押すことで、編集画面が開きます。



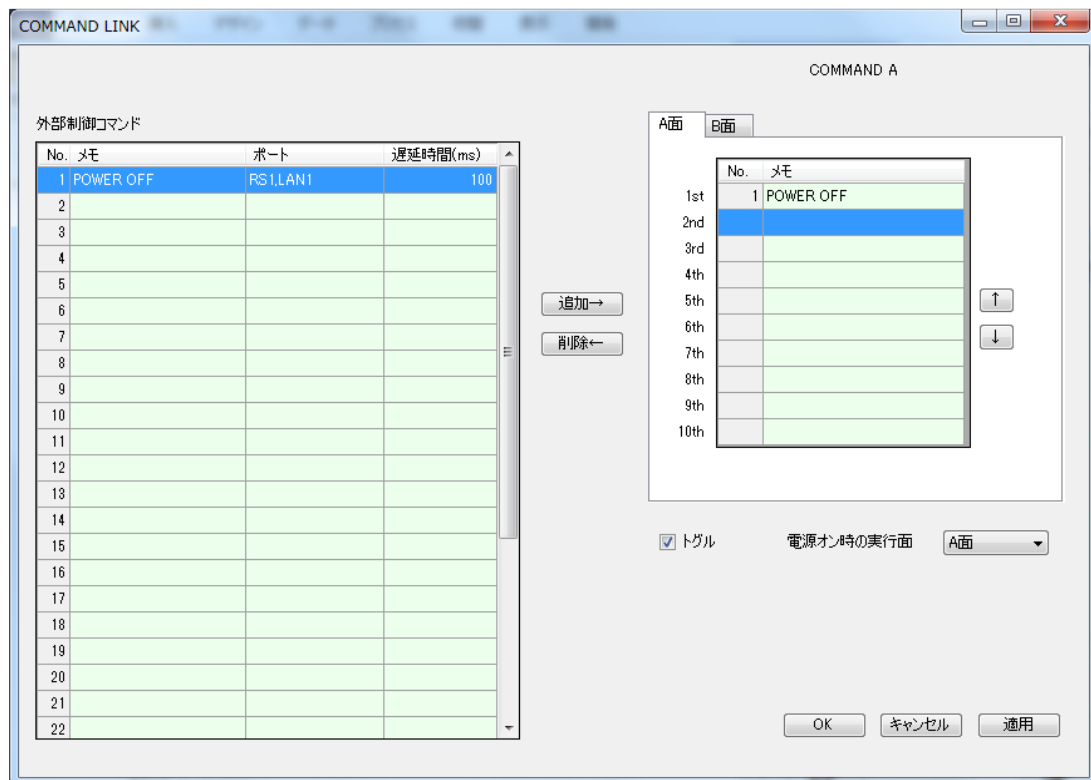
[図 4.12] コマンド関連付けの編集

実行条件一つにつき、最大 10 個の制御コマンドの関連付けができます。

複数の制御コマンドが関連付けられた場合は、登録順に実行されます。

また同じコマンドを複数回関連付ければ、繰り返し実行することも可能です。

制御コマンドの関連付けは通常 [A 面] に行います。[トグル] のチェックボックスをチェックした場合のみ、[B 面] に関連付けを行ってください。実行条件が発生するたびに [A 面] に関連付けられたコマンドと [B 面] に関連付けられたコマンドが交互に実行されます。



[図 4.13] コマンド関連付けの編集画面

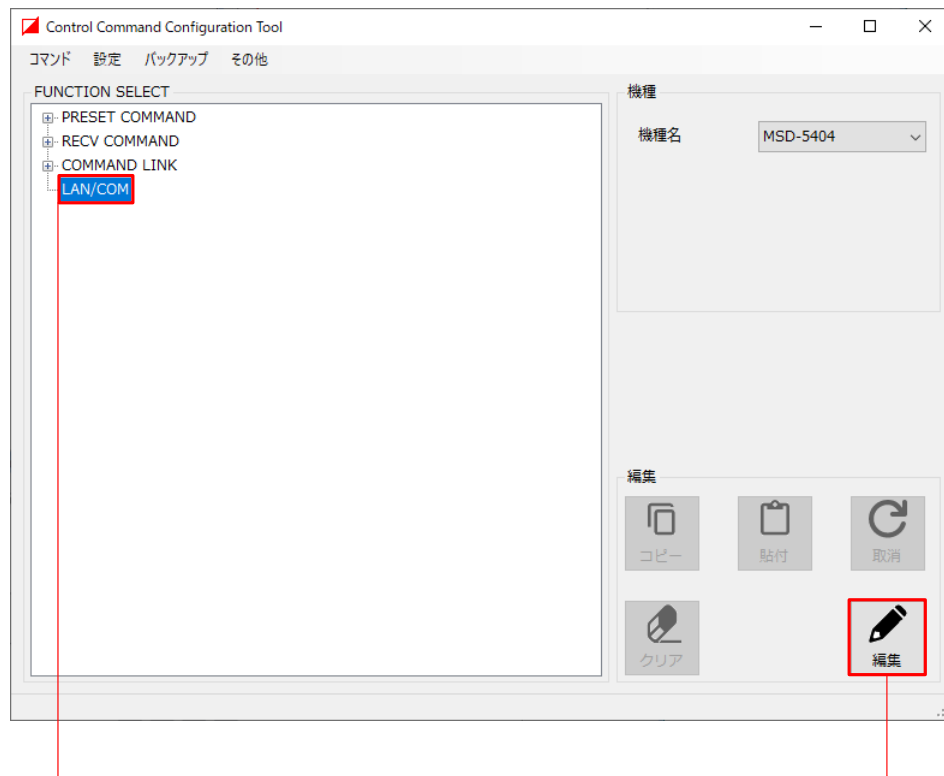
■ [トグル] の動作

実行条件が発生するたびに異なる動作を交互に実行する場合は、[トグル] のチェックボックスをチェックして、[A 面]、[B 面] それぞれに関連付けを行ないます。

このとき、本機の電源ボタン ON 時に実行する面は、“前回値の続き”、“A 面”、“B 面”から選択することができます。“前回値の続き”に設定すると前回電源 OFF 時に最後に実行した面と反対側の面を実行します。初期値は、すべての実行条件の [トグル] が“OFF”に設定されています。

4.2.5 IDK 製品の通信設定を行う

IDK 製品の通信設定を行います。本設定は IDK 製品とコマンド送信先の外部機器との通信と、IDK 製品と本ソフトウェアとの通信で使います。[FUNCTION SELECT] のツリー表示から [LAN/COM] を選択して、ダブルクリックまたは [編集] ボタンを押すことで、編集画面が開きます。



[図 4.14] 通信設定の編集

LAN/COM

LAN

IPアドレス

192

168

1

199

サブネットマスク

255

255

255

0

デフォルトゲートウェイ

192

168

1

200

COM

RS-232C CH1

RS-232C CH2

動作モード

受信モード

通信フォーマット

9600

8

なし

1

通信速度(bps) データ長(bit) /パリティチェック ストップビット(bit)

LAN1

LAN2

LAN3

LAN4

LAN5

LAN6

LAN7

LAN8

動作モード

送信モード

機器本体のポート番号

1100

送信先IPアドレス

192

168

1

198

PJLink

使用しない

送信先ポート番号

1100

パスワード

半角英数字で最大32文字入力できます。

OK

キャンセル

適用

[図 4.15] 通信設定の編集画面

[表 4.9] 機器本体のアドレスの設定

設定項目	設定値
IP アドレス	0.0.0.0 ～ 255.255.255.254 ※初期値 LAN コネクタ : 192.168.1.199 OUTB コネクタ※ : 192.168.1.200
サブネットマスク	0.0.0.0 ～ 255.255.255.255 ※初期値 255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0 ～ 255.255.255.255 ※初期値 MSD-804FD を除く IDK 製品 : 192.168.1.200 MSD-804FD : 192.168.1.201

※ : MSD-804FD にオプションで搭載される HDBaseT 出力。

[表 4.10] RS-232C 通信の設定

設定項目	設定値の範囲
動作モード※1	受信モード、送信モード ※初期値 受信モード
通信速度 [bps]※2	4800、9600、14400、19200、38400、57600、115200 ※初期値 9600
データビット長 [bit]	7、8 ※初期値 8
パリティチェック	なし、偶数(Even)、奇数(Odd) ※初期値 なし
ストップビット [bit]	1、2 ※初期値 1

※1：一部の機種に搭載されるHDBaseT出力 [OUT1B] ～ [OUT4B] の動作モードは送信モード固定となります。

※2：設定可能な通信速度は、機種によって異なります。

[表 4.11] LAN 通信の動作モード設定

設定項目	動作モード	
	受信モード	送信モード
動作モード※1	受信モード ※初期値	送信モード
機器本体の ポート番号※2	23、1100、6000 ～ 6999 の範囲で入力してください ※初期値 LAN1 ～ LAN 3 = 1100、LAN 4 ～ LAN 6 = 23、 LAN 7、LAN 8 = 80※5 【参照：4.2.6 通信設定の一部を Web アプリケーション用に設定する (P.34)】	
接続先 IP アドレス	—	0.0.0.0 ～ 255.255.255.255 ※初期値 192.168.1.199
PJLink	—	使用する 使用しない ※初期値
送信先ポート番号※3	—	1 ～ 65535 ※初期値 1100
パスワード※4	—	半角英数字と記号 (アスキーコードの“20”、“30”～“39”、 “41”～“5A”、“61”～“7A” ※初期値 “20” (スペース) (上記の数値はすべて 16 進表記))

【記号】—：設定不要

※1：一部の機種に搭載されるHDBaseT出力 [OUT1B] ～ [OUT4B] の動作モードは送信モード固定となります。

※2：一部の機種は機器本体のポート番号が固定となります。

※3：PJLink プロトコル接続をする場合の接続先ポート番号は、“4352”固定です。

※4：PJLink プロトコル接続をする場合のパスワード数は、最大 32 文字です。

パスワードによる認証を行わない場合は、設定する必要はありません。

※5：LAN 7 と LAN 8 の初期値は Web ブラウザとの通信用のポート番号に設定されています。

【注意】 機器本体の IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、RS-232C 通信、LAN 通信の動作モードの変更を機器に反映すると、機器本体の通信設定が変更され、本ソフトウェアとの通信が行えなくなる場合があります。

再度本ソフトウェアとの通信を確立する場合には、本ソフトウェアと機器本体との接続設定を、反映後の機器本体の設定に適した値に変更するか、機器本体の通信設定を機器本体のフロントパネルまたは Web ブラウザから変更してください。

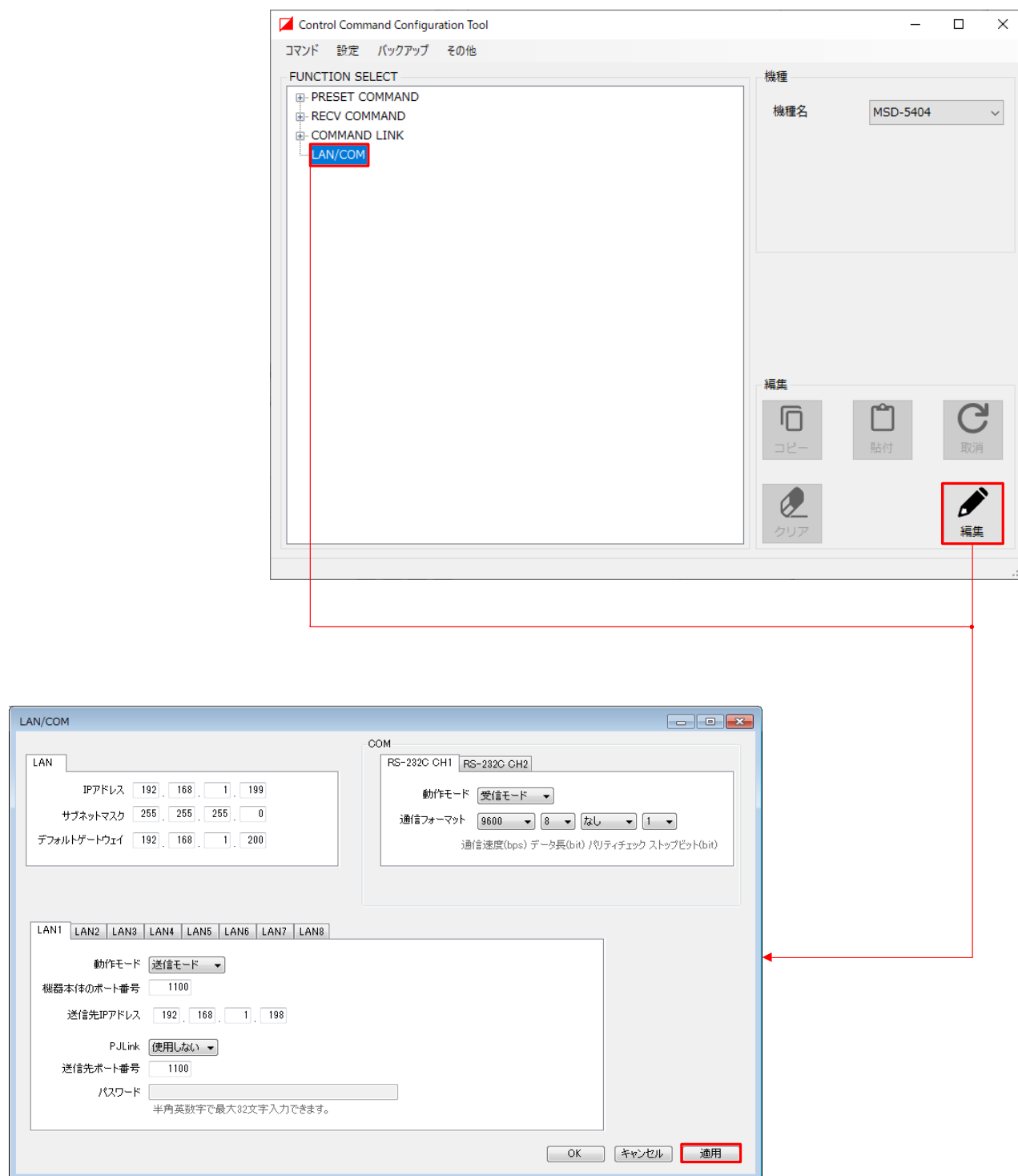
【参照：4.1 本ソフトウェアの接続設定を行う (P.14)】

4.2.6 通信設定の一部を Web アプリケーション用に設定する

本ソフトウェアで設定可能な IDK 製品には、Web アプリケーションが内蔵されており、Microsoft Internet Explorer などの Web ブラウザからも制御することができます。

Web ブラウザで IDK 製品の Web アプリケーションにアクセスする場合、通信設定の一部を Web アプリケーション用に設定する必要があります。

[FUNCTION SELECT] のツリー表示から [LAN/COM] を選択して、ダブルクリックまたは [編集] ボタンを押すことで、編集画面が開きます。



[図 4.16] 通信設定の編集

[LAN1] ～ [LAN8] のいずれかの LAN 通信に対して、動作モードを“受信モード”、機器本体のポート番号を 80、5000 ～ 5999 の範囲に設定することで、制御が可能になります。
各機種の Web ブラウザ上の操作画面へのアクセス方法につきましては、機器のユーザーズガイドをご参照ください。

[図 4.17] 通信設定の編集画面

[表 4.12] LAN 通信の動作モード設定

設定内容	動作モード
動作モード	受信モード
機器本体のポート番号	80、5000 ～ 5999 の範囲で入力してください ※初期値 LAN1 ～ LAN 3 = 1100※1、LAN 4 ～ LAN 6 = 23※1、 LAN 7、LAN 8 = 80 【参照：4.2.5 IDK 製品の通信設定を行う (P.31)】

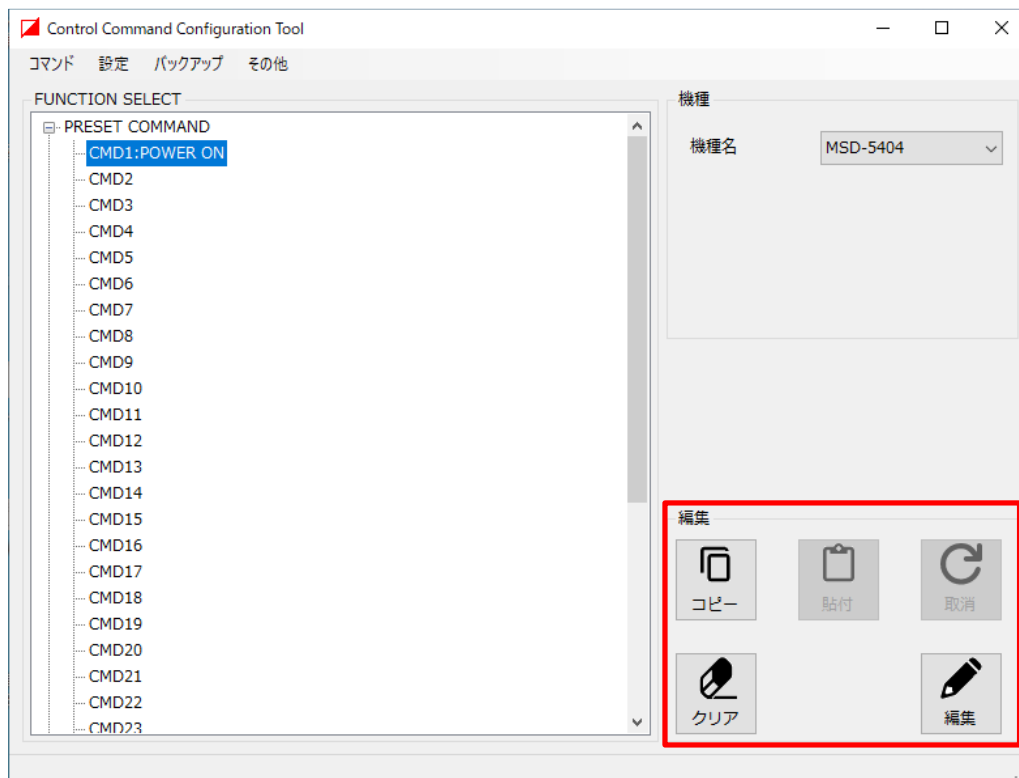
※1: LAN1 ～ LAN 6 の初期値は、外部機器や本ソフトウェアとの通信用のポート番号に設定されています。

【参考】MSD-V4 Series、MSD-V6 Series、ICP-V41U は本設定を行う必要はありません。

4.2.7 コピー / 貼付 / 取消 / クリア / 編集

制御コマンド・返信コマンドの各コマンドの設定内容、コマンド関連付けの各実行条件の設定内容、通信設定の設定内容に各種操作を行います。

[FUNCTION SELECT] のツリー表示から、任意の設定項目を選択して、[編集] の各種ボタンをクリックします。



【図 4.18】 コピー / 貼付 / 取消 / クリア / 編集

【表 4.13】 編集機能

機能	内容
コピー	コピー元を選択します。
貼付	コピー元の制御コマンド・返信コマンドの設定内容、コマンド関連付けの各実行条件の設定内容をコピー先に貼り付けます。
取消	コピー元の選択をキャンセルします。
クリア	選択項目（制御コマンド・返信コマンド、コマンド関連付けの各実行条件）の設定内容を初期化します。
編集	選択項目の編集画面を開きます。

別の設定項目に、同じ設定内容を登録したい場合は以下の手順で操作します。

1. [編集] ボタンを押して、設定項目を編集します。

【参照：4.2.2 制御コマンドの編集 (P.16)】

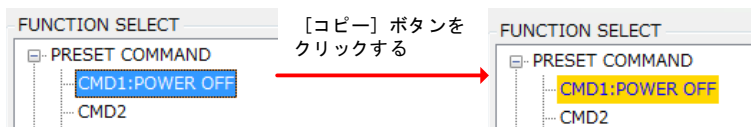
【参照：4.2.3 返信コマンドの編集 (P.25)】

【参照：4.2.4 コマンド関連付けの編集 (P.29)】

2. コピー元となる設定項目を選択して、[コピー] ボタンを押します。
3. 貼り付けを行いたい設定項目を選択して、[貼付] ボタンを押します。
4. 選択した設定項目の内容が、コピー元の設定項目と同一になります。

■ コピー

制御コマンド・返信コマンドの各コマンドの設定内容、コマンド関連付けの各実行条件の設定内容をコピーします。

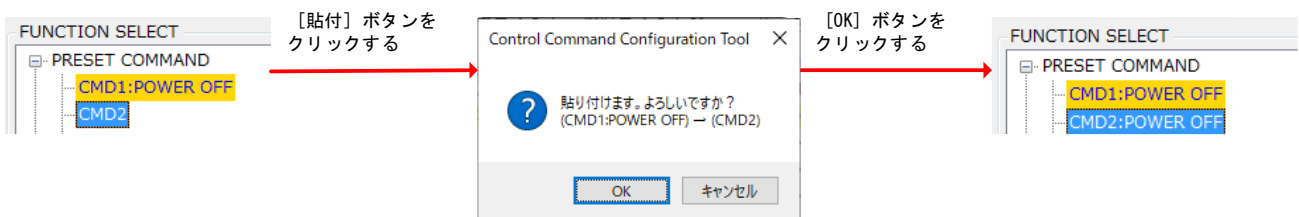


※設定項目の背景色が金色:コピー元が選択されている

【図 4.19】 コピーの手順

■ 貼付

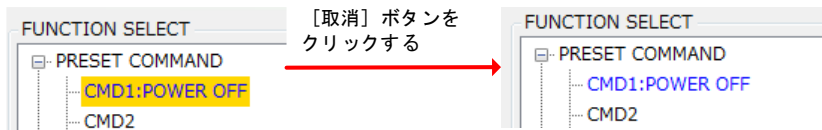
コピーした制御コマンド・返信コマンドの各コマンドの設定内容、コマンド関連付けの各実行条件の設定内容を貼り付けます。



【図 4.20】 貼付の手順

■ 取消

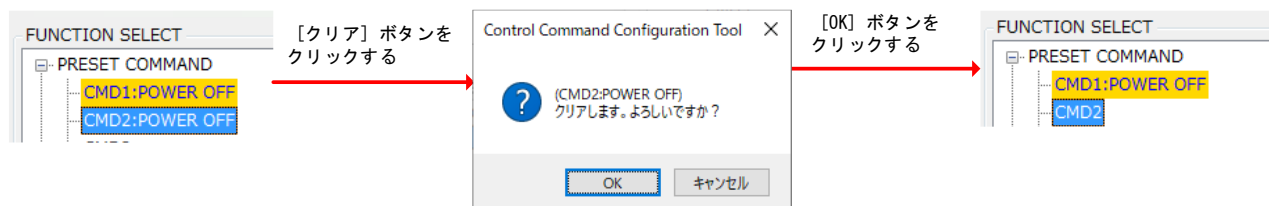
コピー元の選択をキャンセルします。



【図 4.21】 取消の手順

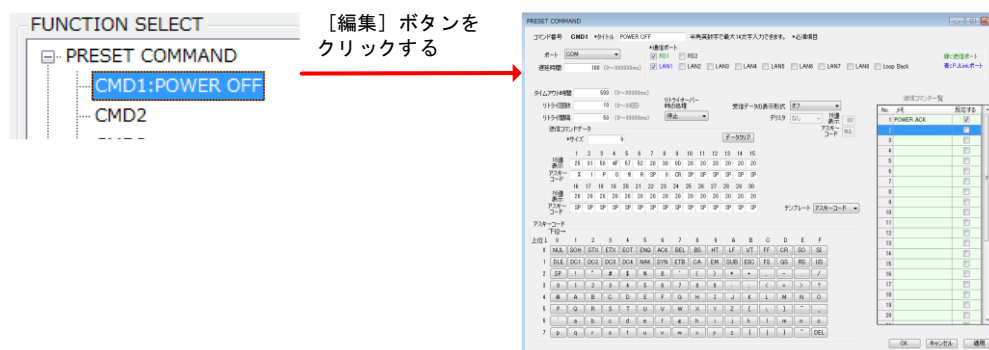
■ クリア

制御コマンド・返信コマンドの各コマンドの設定内容、コマンド関連付けの各実行条件の設定内容を初期化します。



[図 4.22] クリアの手順

■ 編集



[図 4.23] 編集の手順

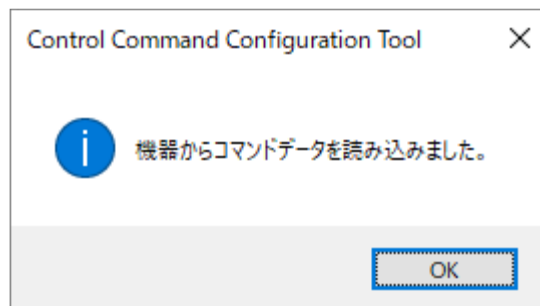
4.3 コマンドを機器本体から読み込む / 機器本体に書き込む

機器本体との通信を確立することで、編集をするために機器本体から通信設定 (RS-232C 通信設定、LAN 通信設定) と制御コマンド送信機能 (制御コマンド、返信コマンド、コマンド関連付け) の設定値を読み込むことや、本ソフトウェアで編集した通信設定と制御コマンド送信機能の設定値を機器に反映することができます。

【参照：4.1 本ソフトウェアの接続設定を行う (P.14)】

4.3.1 コマンドを機器本体から読み込む

機器本体から通信設定と制御コマンド送信機能の設定値を、本ソフトウェアに読み込みます。
機器本体との接続設定をして、[コマンド] メニュー - [読込] - [機器...] を選択してください。
本ソフトウェアへの反映が完了すると、完了メッセージが表示されます。



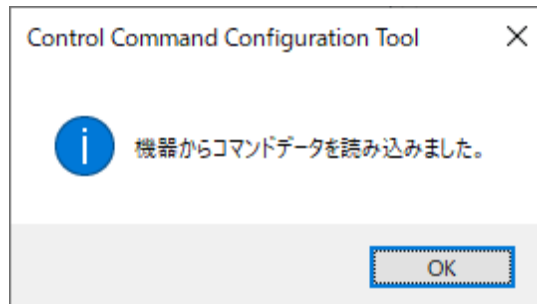
【図 4.24】読み込み完了メッセージ

【注意】 エラーメッセージが表示された場合は、再度 RS-232C 通信設定、LAN 通信設定の確認をしてください。

【参照：4.1 本ソフトウェアの接続設定を行う (P.14)】

4.3.2 コマンドを機器本体に書き込む

編集した通信設定と制御コマンド送信機能の設定値を機器本体に反映します。
機器本体との接続設定をして、[コマンド] メニュー - [書込] - [機器...] を選択してください。
機器本体への反映が完了すると、完了メッセージが表示されます。



【図 4.25】 書き込み完了メッセージ

【注意】 エラーメッセージが表示された場合は、再度 RS-232C 通信設定、LAN 通信設定の確認をしてください。

【参照 : 4.1 本ソフトウェアの接続設定を行う (P.14) 】

4.4 コマンドをファイルから読み込む / ファイルに書き込む

編集した通信設定 (RS-232C 通信設定、LAN 通信設定) と制御コマンド送信機能 (制御コマンド、返信コマンド、コマンド関連付け) の設定値をファイルに保存することや、以前保存したファイルから通信設定と制御コマンド送信機能の設定値を読み込むことができます。

4.4.1 コマンドをファイルから読み込む

本ソフトウェアで作成したファイルを、本ソフトウェアに読み込みます。

[コマンド] メニュー - [読込] - [ファイル...] を選択します。

[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されるので、本ソフトウェアで作成したファイルを選択します。編集内容が本ソフトウェアに反映されます。

4.4.2 コマンドをファイルに書き込む

編集した通信設定と制御コマンド送信機能の設定値をファイルに保存します。

[コマンド] メニュー - [書込] - [ファイル...] を選択します。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されるので、任意の場所にファイルを保存します。

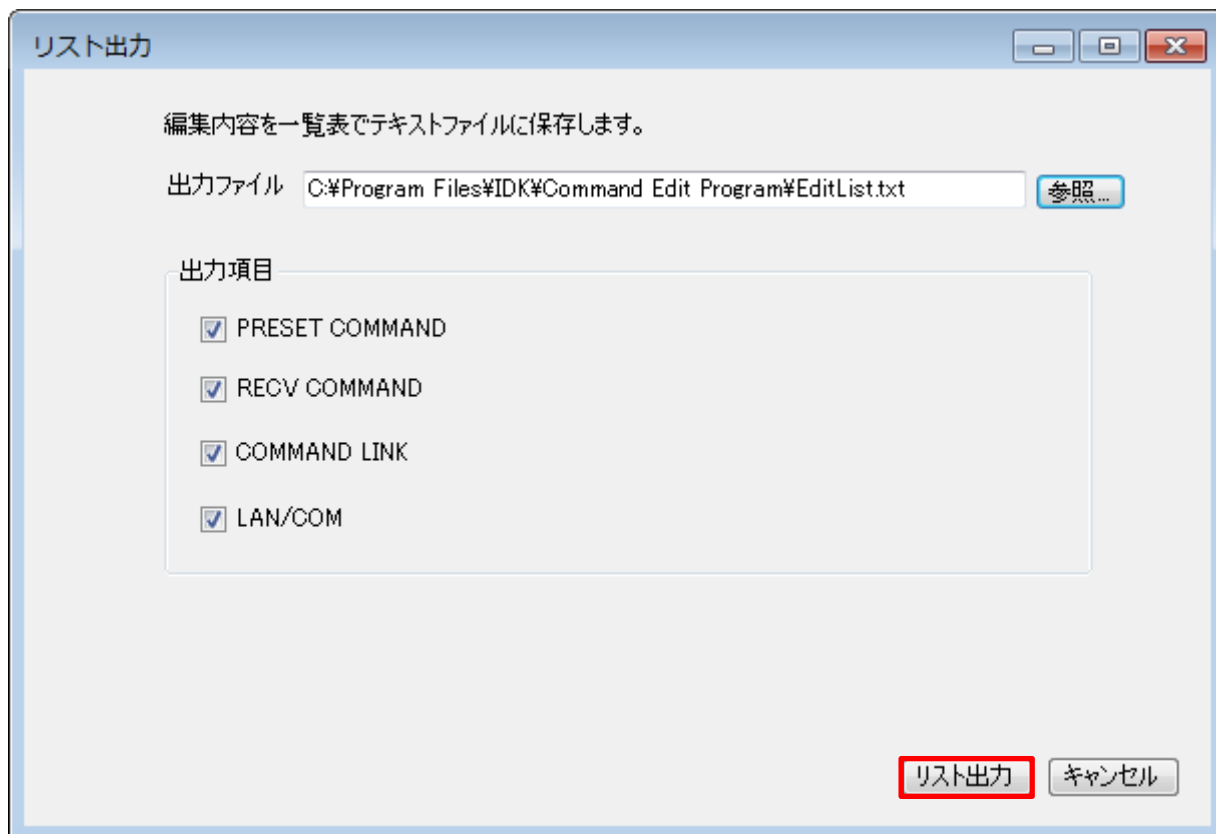
4.5 設定内容の一覧をテキスト出力する

編集された通信設定 (RS-232C 通信設定、LAN 通信設定) と制御コマンド送信機能 (制御コマンド、返信コマンド、コマンド関連付け) の設定値をテキストファイルとして保存します。

[コマンド] メニュー - [リスト出力] を選択して、出力画面を開きます。

[出力ファイル] と [出力項目] を選択して、[リスト出力] ボタンを選択します。

“メモ帳” が起動して、保存されたテキストファイルが表示されます。



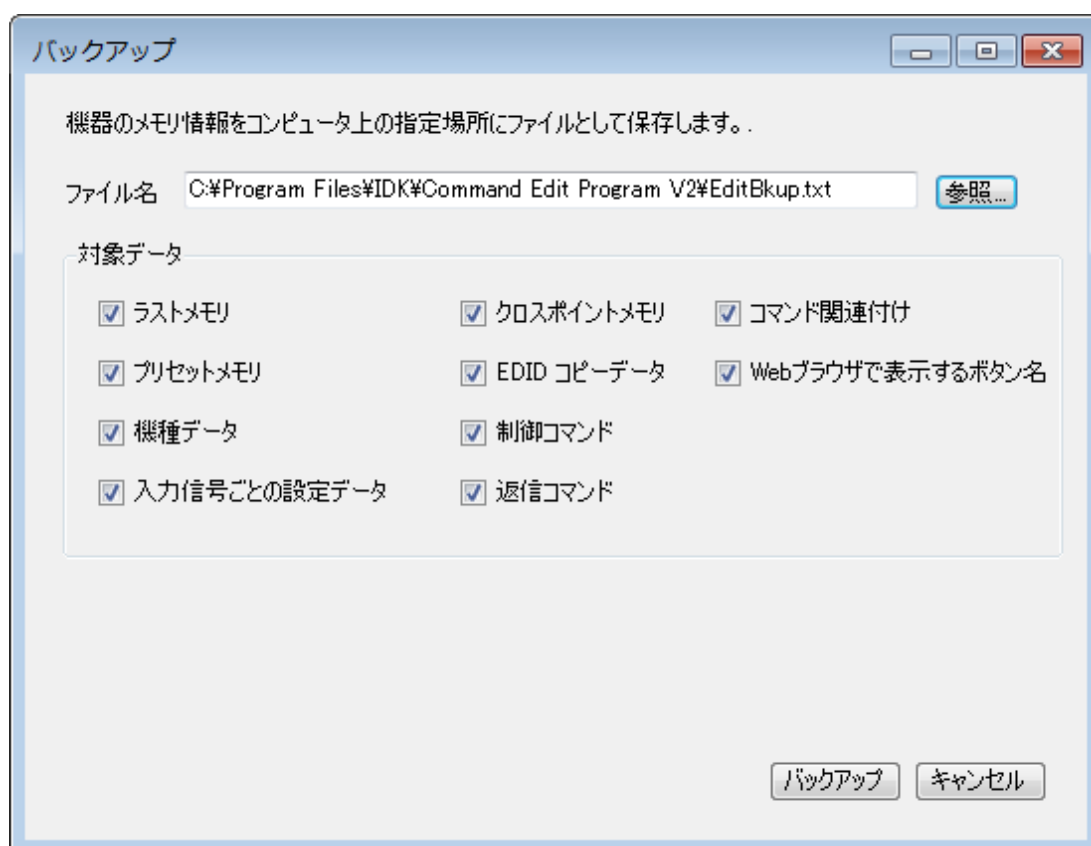
[図 4.26] 通信設定と制御コマンド送信機能の設定値のリスト出力画面

4.6 機器本体の全設定内容をバックアップ / リストアする

機器本体の機種ごとに設定可能な全内容を、パソコンにファイルとしてバックアップすることができます。バックアップしたデータは、機器本体の設定の復元に使用することができます。また他の同製品に設定のコピーをすることもできます。

4.6.1 機器本体の全設定内容をバックアップする

機器本体の機種ごとに設定可能な全内容をファイルにバックアップすることができます。バックアップは、[バックアップ] ボタンを選択したときに実行されます。バックアップした設定を機器本体に適用するときに、特定の設定を上書きしたくない場合は、[対象データ] から該当する設定項目のチェックを外して、バックアップを行なってください。



[図 4.27] [バックアップ] ダイアログボックス

[表 4.14] 対象データ

メニュー	説明
ラストメモリ	機器本体のメニューの現在の設定値です。 ([プリセットメモリ]、[機種データ]、[クロスポイント]、[EDID コピーデータ]、[制御コマンド]、[返信コマンド]、[コマンド関連付け]、[ブラウザで表示するボタン名] 以外のすべての設定可能なメニューがこれに含まれます) 詳細は機種ごとのユーザズガイドをご参照ください。
プリセットメモリ	ユーザーが任意のタイミングで設定を保存しておくことができるメモリです。保存できる設定内容については、機器本体のユーザズガイドをご参照ください。 必要なときに読み出すことで、保存時の設定を機器本体に適用することができます。
機種データ	特定の映像信号が入力された場合に読み出される設定です。ユーザーが任意で機器に登録します。 詳細は機器本体のユーザズガイドをご参照ください。
入力信号ごとの設定データ	特定の映像信号が入力された場合に読み出される設定です。ソース機器が接続されたときに、機器本体が自動で登録します。 詳細は機器本体のユーザズガイドをご参照ください。
クロスポイントメモリ	ユーザーが任意のタイミングで設定を保存しておくことができるメモリです。 出力チャンネルに対して、どの入力チャンネルが割り当てられているかの設定のみ保存することができます。 必要なときに読み出すことで、保存時の設定を機器本体に適用することができます。
EDID コピーデータ	ユーザーがシンク機器から機器本体にコピーした EDID データです。
制御コマンド	機器本体に登録されている制御コマンドです。
返信コマンド	制御コマンドに対する返信がこのコマンド内容と一致するかどうか、また一致した場合の制御コマンドの送信シーケンスをどうするかの設定です。 制御コマンドに関連付けて使用します。
コマンド関連付け	特定の実行条件と、その実行条件を満たした場合にどの制御コマンドが送信されるかの設定です。
Web ブラウザで表示するボタン名	機器本体に搭載されている制御用 Web アプリケーション上にある、ユーザーが任意でテキストを変更可能なボタンのテキストデータです。

【参考】 バックアップファイルはテキストファイルで保存されます。

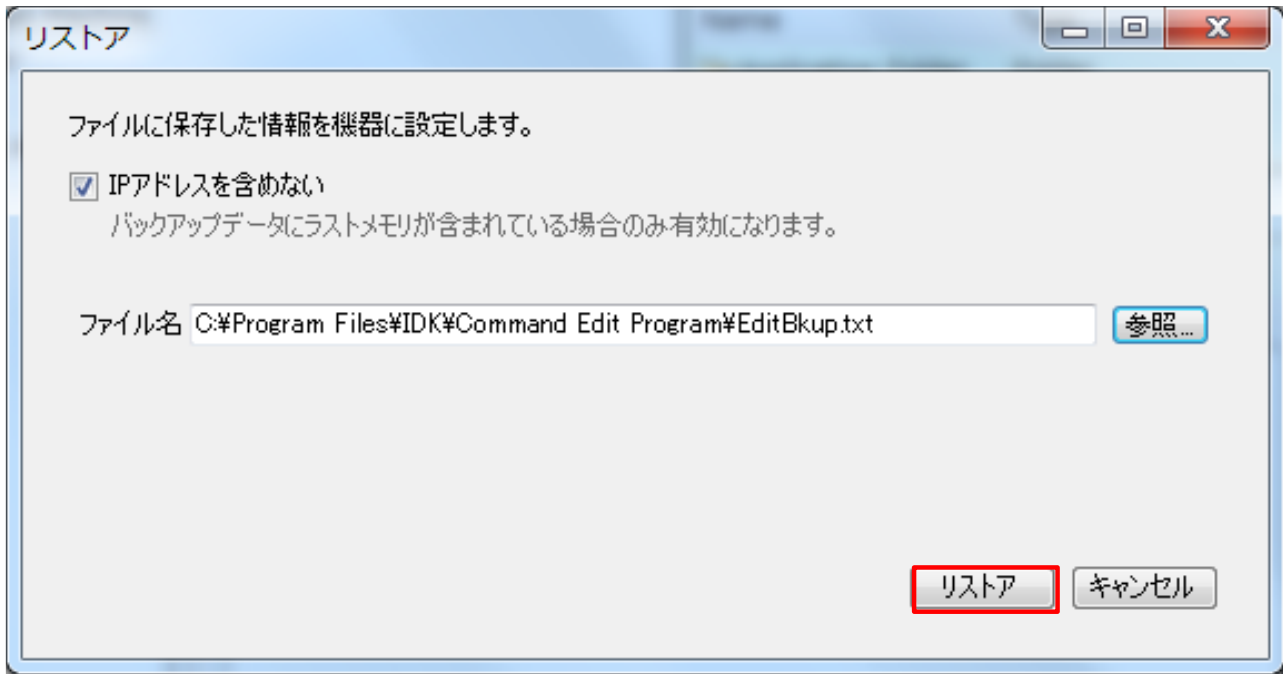
【注意】 シリアル通信の場合、バックアップ完了までに時間がかかる場合があります。

4.6.2 パソコンに保存したバックアップデータを機器本体にリストアする

バックアップファイルとして保存した設定データを機器本体に適用します。

リストアは、[リストア] ボタンを選択したときに実行されます。

[IP アドレスを含めない] チェックボックスにチェックを入れることで、機器本体の IP アドレスの変更はされません。



【図 4.28】 [リストア] ダイアログボックス

【注意】 ・ リストアを行うと、機器本体の通信設定が変更され、本ソフトウェアとの通信が行えなくなる場合があります。

再度本ソフトウェアとの通信を確立する場合には、本ソフトウェアと機器本体との接続設定をリストア後の設定に適した値に変更するか、機器本体の通信設定を機器本体のフロントパネルまたは Web ブラウザから変更してください。

【参照：4.1 本ソフトウェアの接続設定を行う (P.14)】

- ・ リストアする設定データに空の制御コマンドが存在する場合、その番号の制御コマンドは上書きされずリストア前の制御コマンドが保持されます。

【参照：4.2.2 制御コマンドの編集 (P.16)】

- ・ シリアル通信の場合、リストア完了までに時間がかかる場合があります。

4.7 Control Command Configuration Tool の終了

Control Command Configuration Tool を終了するには、[コマンド] メニュー - [終了] を選択してください。

4.8 Control Command Configuration Tool のバージョン情報表示

Control Command Configuration Tool のバージョン情報は、[その他] メニュー - [バージョン情報] から確認ができます。



[図 4.29] Control Command Configuration Tool のバージョン情報

4.9 Readme の表示

Readme を表示するには、[その他] メニュー - [Readme の表示] を選択してください。

Readme には以下の情報が記載されています。

- ・ バージョンの更新履歴
- ・ 操作手順の簡易説明

Control Command Configuration Tool 取扱説明書

Ver.7.0.0

発行日 2023 年 10 月 02 日



株式会社 アイ・ディ・ケイ

本 社 〒242-0021 神奈川県大和市中央 7-9-1
TEL (046) 200-0764 FAX (046) 200-0765

関西営業所 〒564-0063 大阪府吹田市江坂町 1-23-5 大同生命江坂第 2 ビル 5 階
TEL (06) 6192-0764 FAX (06) 6192-0906

九州営業所 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前 4-9-2 八百治センタービル 3 階
TEL (092) 431-0764 FAX (092) 431-0906

E メールアドレス info@idk.co.jp **ホームページ** www.idk.co.jp